

豪雨の恐怖

36災害20周年記念誌

上郷町職員互助会

恐怖の豪雨

36災害20周年記念誌



上郷町職員互助会



昭和二十六年六月二十五日から降り出した雨は停滞した梅雨前線豪雨となつて当地に大量の雨を降らせ二十七日に至り雨量五百耗に及んだため山は崩れ河川は氾濫し道を欠き橋を落し田は流れ畑は埋まり家が流壊して人命を失ひ又電灯は消えて暗黒の夜が続き村境の橋は流失して村が孤立の状況になる等言語に絶する大被害を蒙るに至つた。その結果死者三名田畑山林の流失埋没五十町歩道路の欠壊二十四ヶ所五十八ヶ米橋の流失三十六ヶ所流失全半壊家屋八十戸床上床下浸水二百三十戸に及び被害総額實に拾億円の巨額に達したのである。国は災害救助法を発動し雨を止むと共に全村一致の災害復旧作業を開始された雨未四ヶ年物心両面に亘る労苦と積み重ねて復旧を完了し転禍爲福道路河川耕地の様相は元の面目を一新したのである正徳五年六月十八日発生の未満水災害以来二百五十一年目の大災害とその復興を永く記念する爲こゝに碑を建立し併せて災害犠牲者の霊を慰めらるゝとする。

昭和四十年四月十五日

上郷村長

佐々木又一



発刊のことば

町 長 山 田 隆 士

二十年前の梅雨前線豪雨による洪水と土石流による、野底川や土曾川等をはじめとする各中小河川の堤防の決壊、埋没した田畑や家屋、それに尊い人命まで奪った災害の痕跡は、改良された護岸、復旧された山腹など、上郷町のありし日の自然の姿を大きく変貌させています。

伊那谷は急峻な地形の上に、河岸段丘あり扇状地あり、いったん豪雨にみまわれると堤防は決壊し、家屋や田畑の流出、道路や橋梁の流失崩落等の災害をうける宿命におかれています。『ひつじ満水』以来の豪雨と言われた『未曾有』の三六災も、国・県をはじめ関係方面の方々の理解と協力、町民の力強い復旧意欲の結集によって幾多の困難を克服し、ここに立派に復旧されましたことは誠に同慶にたえないところで厚く感謝の意を表する次第であります。

しかしながら二十年を経た今日、あれ程の大災害でありながら人々の記憶から遠ざかり始めています。私どもは役場・病院・学校・保育園・授産所等に勤務する職員相はかり関係職員一丸となって文集の編集を思いたち、当時の資料や記録をととのえ、後世につたえるべく『三六災害二十周年記念誌 恐怖の豪雨』をまとめることにいたしました。

三六災の貴重な体験と、幾多の苦難を乗り越えて来た活動の歩みが集録され、ここに暮す人々の教訓として、のちのちまで役立つことになるならば望外の喜びこれにすぎるものではありません。

本書のために、木下・牧野元助役さん、宮脇元収入役さん、宮崎前教育長さんよりは心よく寄稿いただき、更に職員の各位や、資料を提供して下さった方々に深く感謝申し上げると共に発刊に当り編集を担当いただいた各位のご労苦に深甚なる謝意を表し、発刊のことばといたします。



序によせて

三六災文集編集特別委員長 八尾 芳穂

あのいまわしい恐怖の三六災に襲われ、当時村民一体となって励まし合い、いたわり合い、苦難を乗り越えてここに二十年を迎えました。伊那谷はもとより私共の上郷町も抜本的な復旧工事が進められ自然の姿がすっかり変えられて来ています。池の平一体は今尚林道のつけ替、大堰堤増設工事が進められています。

苦難の三六災から二十年、災害を知らない方々が数を増し、記憶から遠ざかり、風化し、ともすれば忘れがちとなり、当時の貴重な資料も失われつつあります。

このときに三六災文集編集特別委員会が組織され、回顧録が発刊されることは誠に時宜を得たものと思料する次第であります。苦しかった当時を回顧し、身をもって体験した生々しい出来事、状況、実感や感動の記録等、貴重な体験をお寄せ下さった方々に深甚なる感謝の意を表する次第であります。

尚本書の編纂にあたり特別委員の方々には原稿の収集から、写真・資料の収集・提供・編集等、発刊までのお骨折りに対し、衷心より謝意を申し上げ、ここに綴られている『貴重な体験』『悲痛な体験』を後世の若い世代に伝え残し、地域づくりや、今後の発展への機縁ともなれば望外の喜びであります。

それぞれの方々に重ねてその労に感謝し、発刊を祝い巻頭の言葉といたします。



もくじ

表紙・扉文字 北原 克司
口絵 拓本 別府 大蔵昌三氏

発刊のことば	町長 山田 隆士	5
序によせて	三六災文集編集特別委員会委員長 八尾 芳穂	6

写真集	目を覆う被災現場と復旧後	13
-----	--------------	----



■ 諸 資 料 ■ — 未曾有の記録集 —

昭和三七・六梅雨前線豪雨災害概要	287
郷土の主な災害史	288
昭和三十六年梅雨前線豪雨について	291
被害状況調	295
耕地被害状況表	297
避難所・炊出し実施状況	299
救援物資配分一覽表(第一次分)	301
救援物資配分一覽表(第二次分)	302
災害救援物資配分一覽表	303
当時の生産者米価	304
館報 — 一四三号 —	310
復旧関係 野底川	314
復旧関係 土曾川	318
災害・復旧関係記事のをせた館報	338
災害前の村図	340
現在の町図	343
上郷町の人口・世帯数の推移	345
地区別世帯数・人口の推移	346
当宿直日誌より	350
信毎・中日等新聞抜すい	366
当時の職員配置表	368
三六災害文集編集特別委員会日誌	369
編集後記	

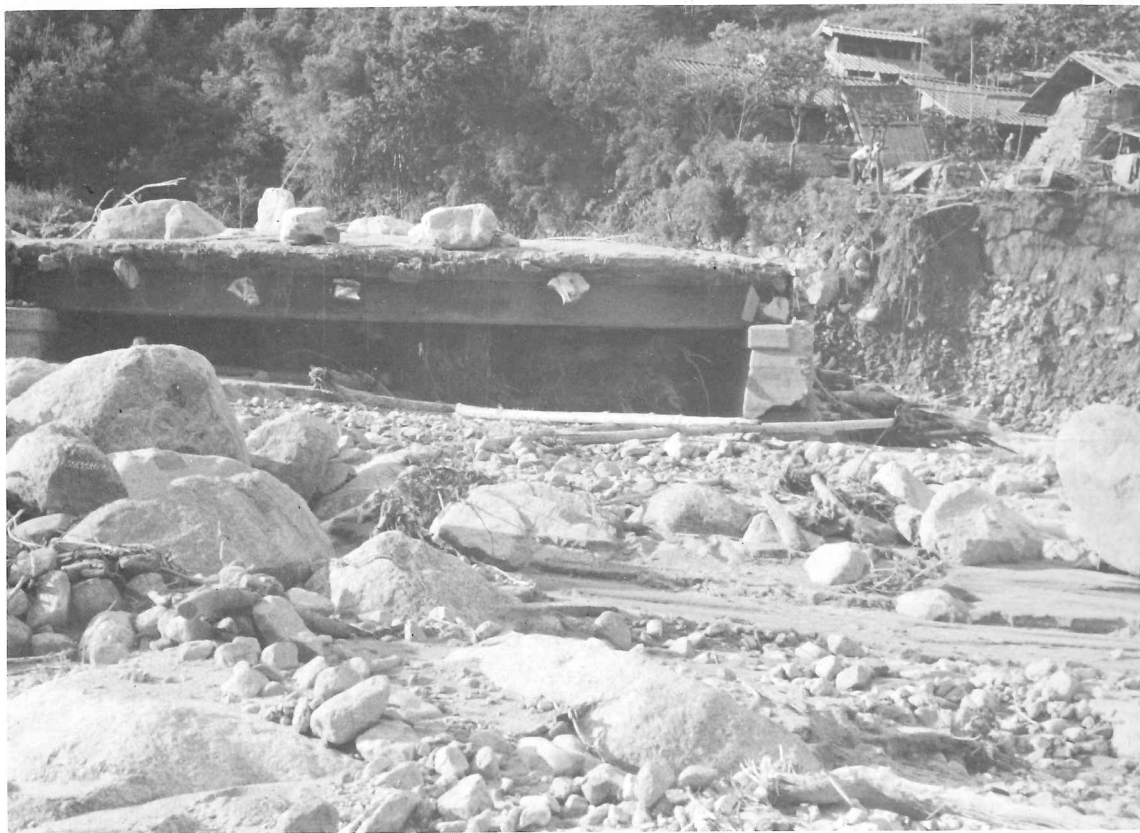
369 368 366 350 346 345 343 340 338 318 314 310 304 303 302 301 299 297 295 291 288 287

写真集

目を覆う被災現場と復旧後



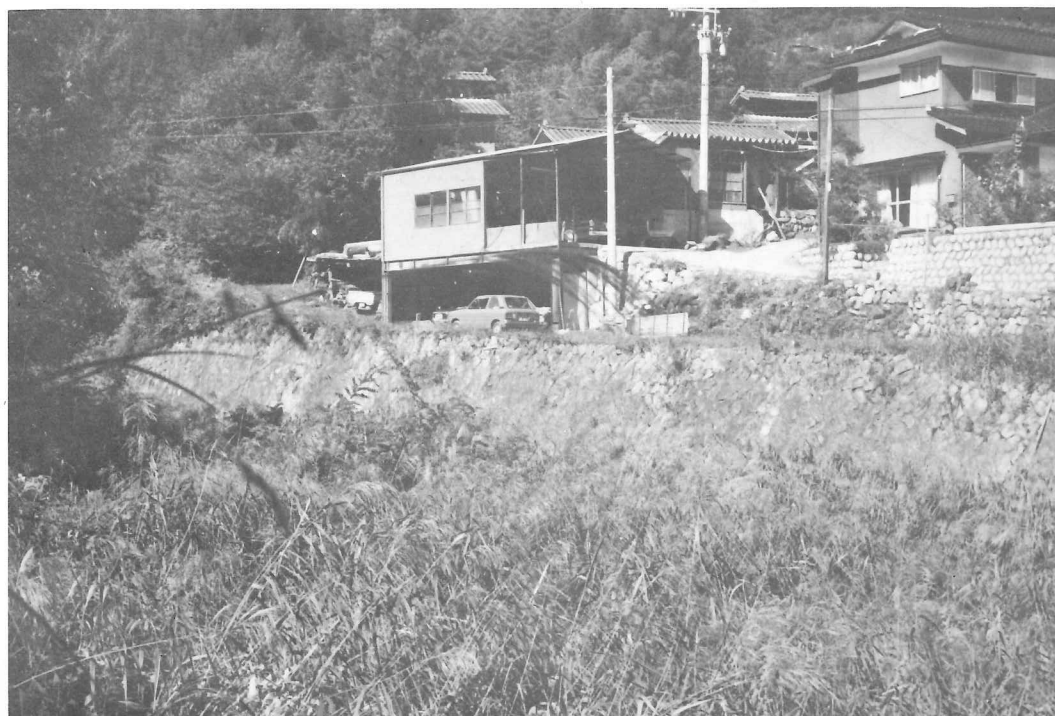
- ① 天龍川
- ② 松 川
- ③ 野底川
- ④ 御殿山
- ⑤ 飯田高校
- ⑥ 上郷小学校
- ⑦ 高陵中学校
- ⑧ 国道153号線
- ⑨ 土曾川
- ⑩ 南大島川
- ⑪ 小 川
- ⑫ 弁天橋



野底川 棚田橋下流から。高欄も取れて無惨な姿となった。



野底川 棚田橋上。農地が大きく崩落流失した。



現在の同所



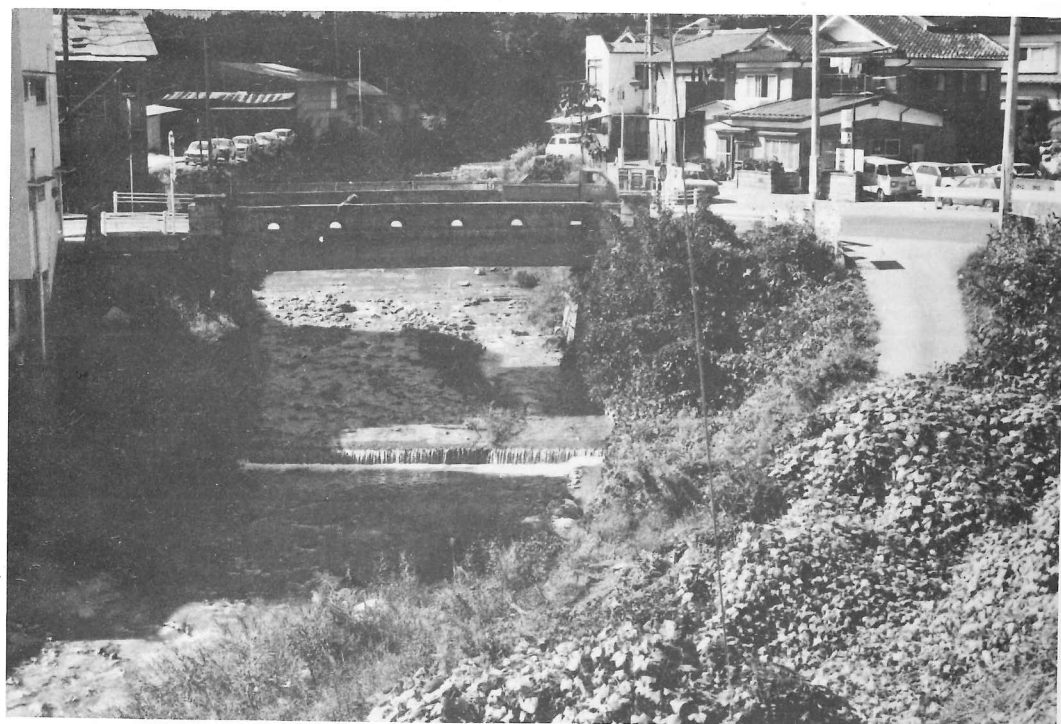
現在の野底川 棚田橋上



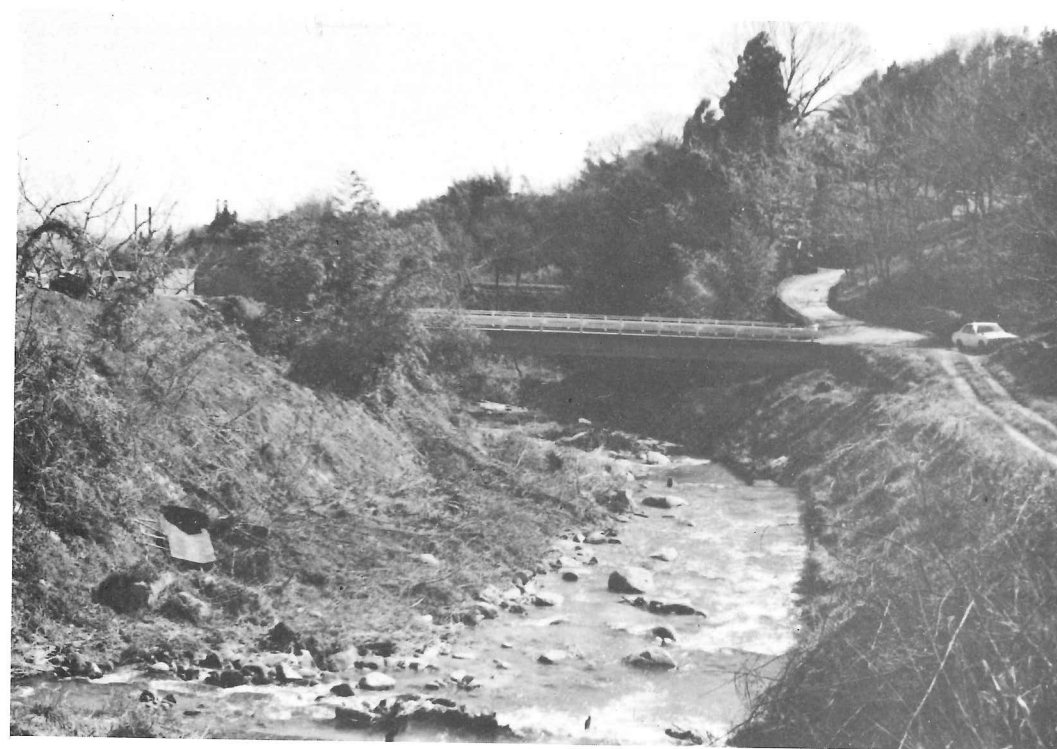
野底川 野底橋。どのようにして、橋の上まで木材が跳ね上がったのか？



野底川中央部分に、黒田橋が架設されていた。(上流から下流方向)



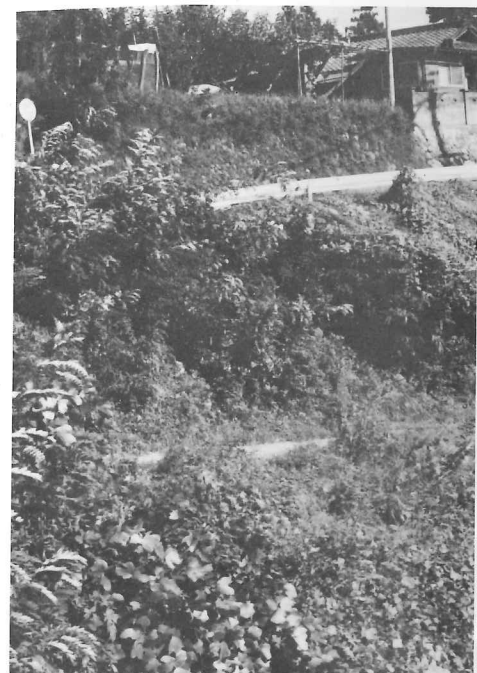
現在の野底橋



復旧なった黒田橋



野底橋下。県道も崩落し、交通が遮断された。



現在の野底橋下





野底 都出上。左の倉が今も残る。



復旧なった都出上



野底川 飯田線隧道。
この木材がつまり、線路伝いに、上郷駅の方へ
野底川の水が流れたら！ 考えても恐ろしい。



国鉄飯田線隧道。馬に乗って通れる位の高さがあったが、災害でこの通り。



現在の飯田線隧道



現在の同所



鉄道より、都出下流を望む。



野底川 都出橋下。都出橋も流失した。



現在の同所



現在の同所



小伝馬橋。飯田側から上郷を写す。



野底川 小伝馬橋付近の水防活動



復旧なった小伝馬橋



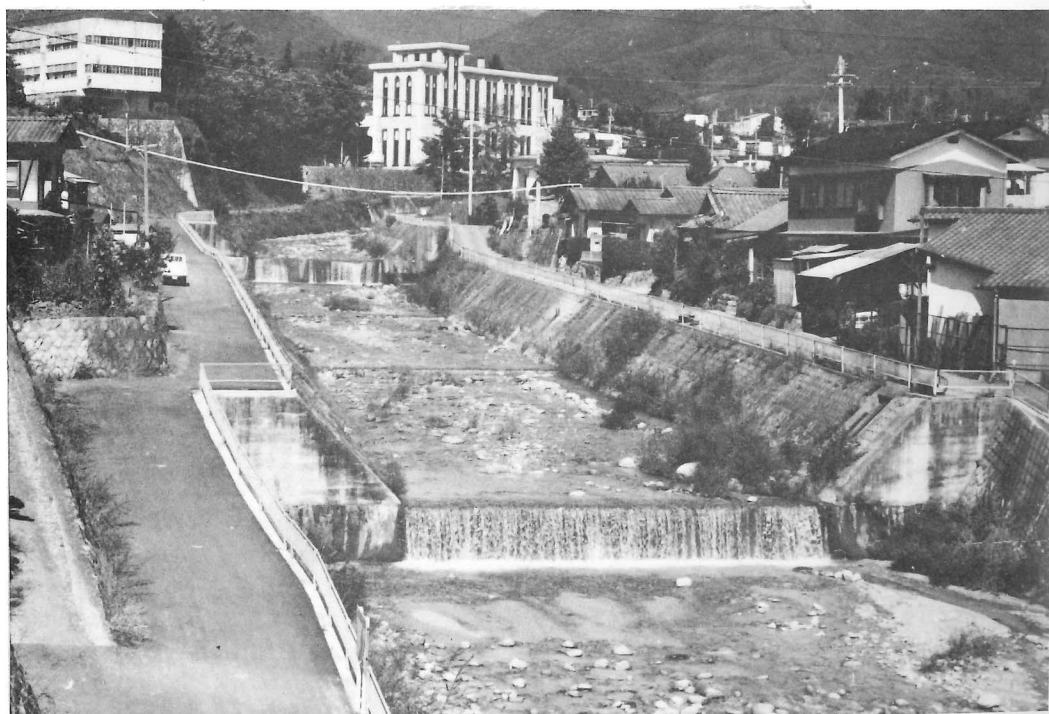
復旧なった小伝馬橋と上付近



小伝馬橋上流



くずれ落ちた小伝馬橋



現在の同所



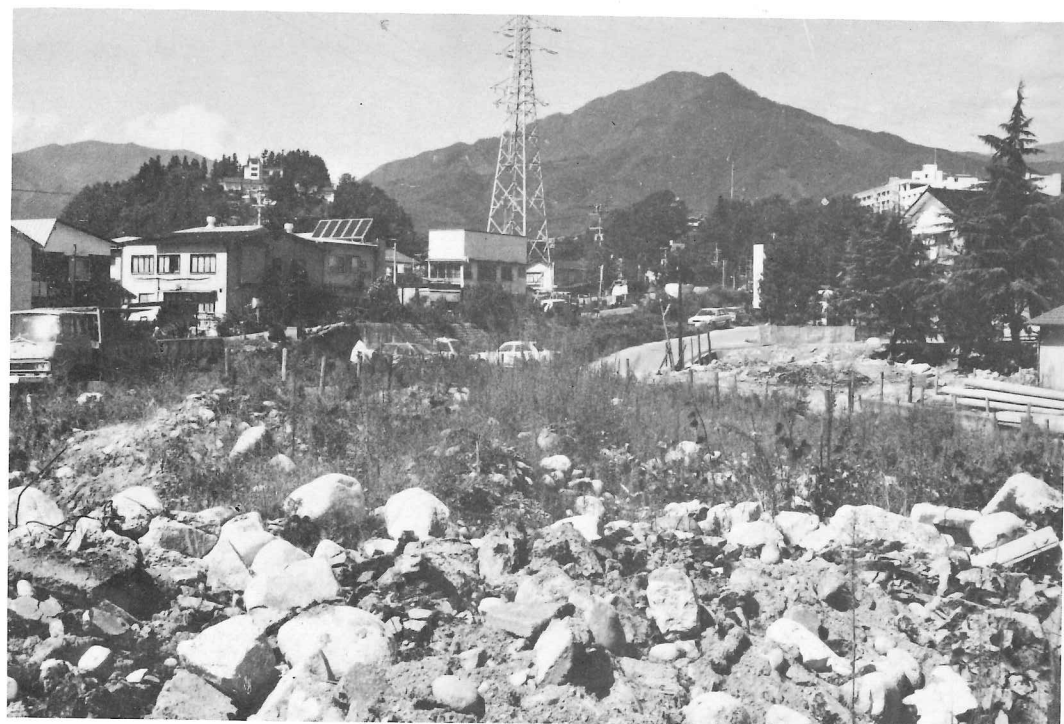
現在の小伝馬橋



野底川の松川合流点上



蟹江医院付近



現在の同所



現在の同所



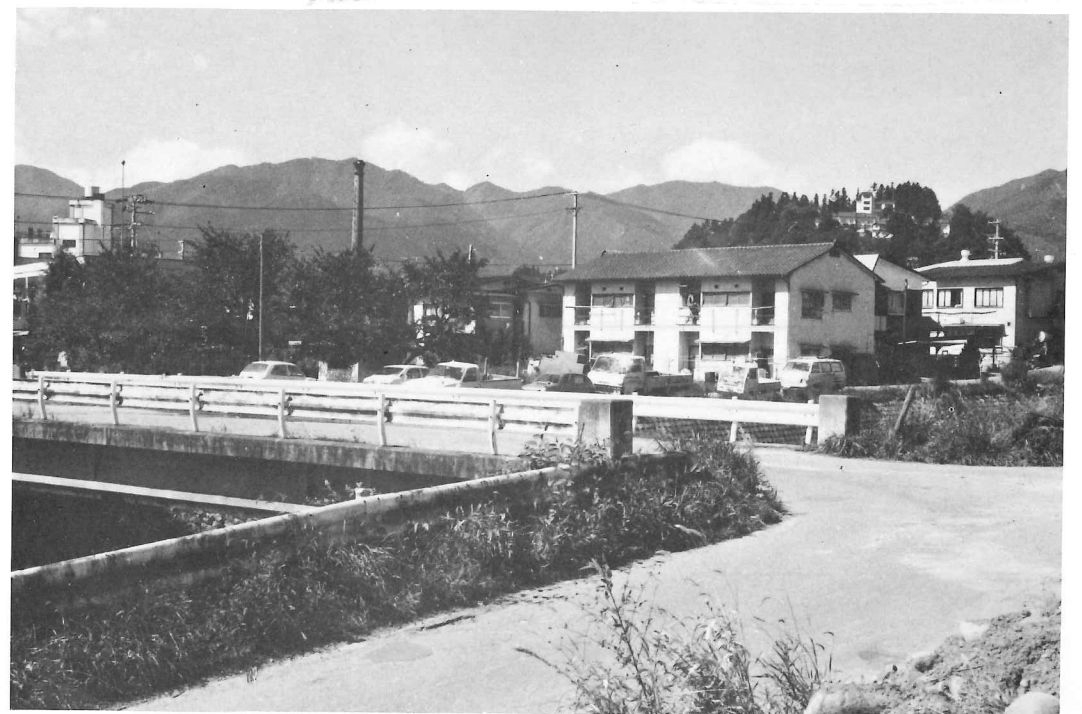
城東 夜泣き石



城東 隠田橋付近



現在の同所



復旧なった隠田橋

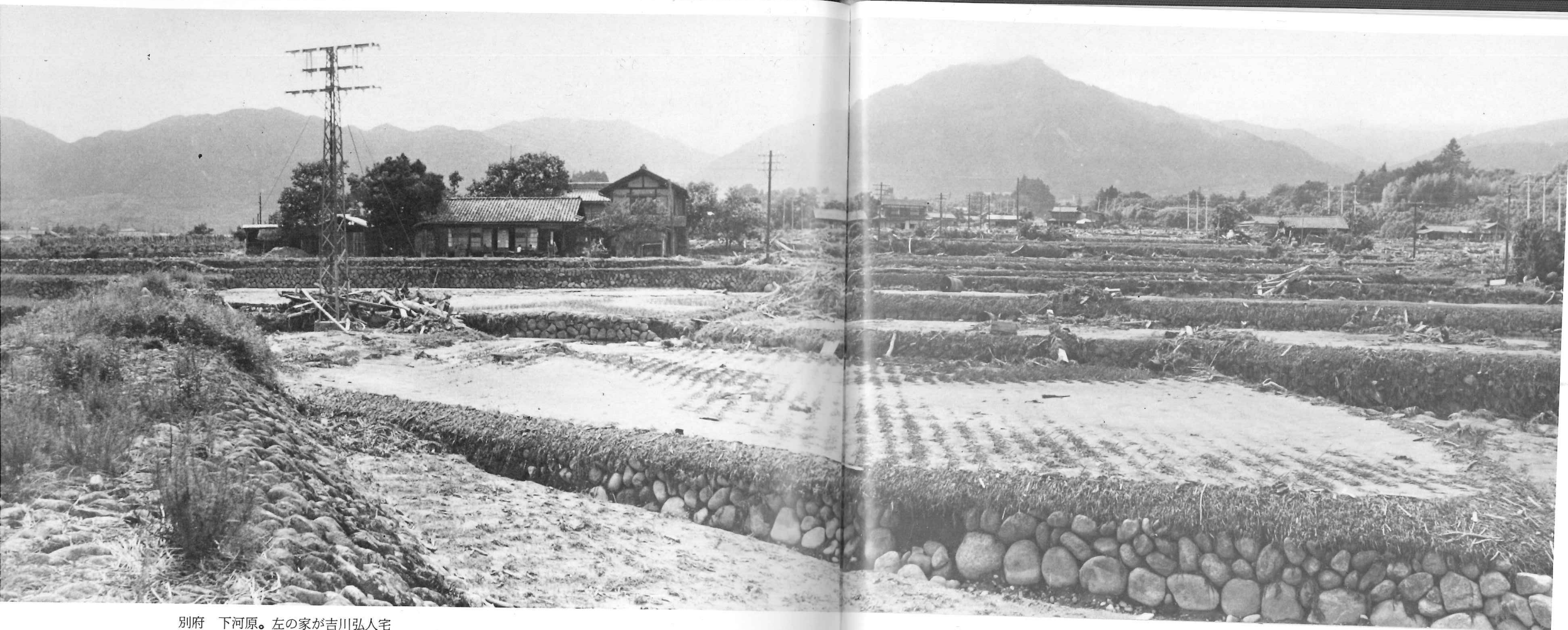


城東 国道 153 号線から



現 在 の 同 所





別府 下河原。左の家が吉川弘人宅



現在の同所



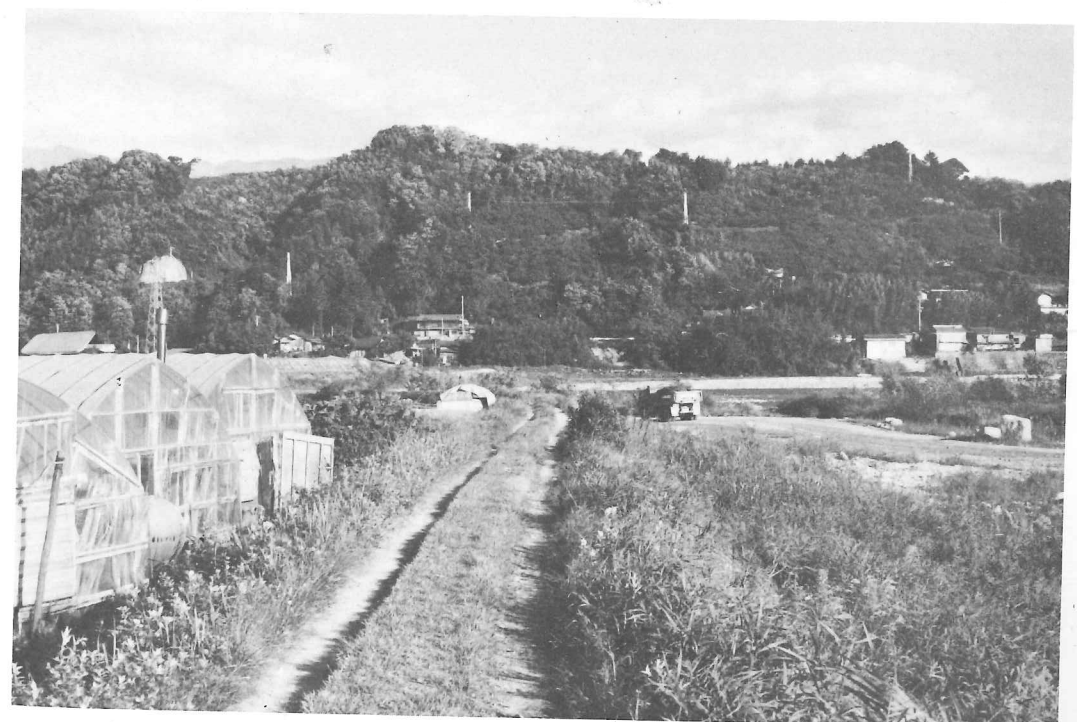
天竜川 丹保前。28日の昼から夜11時まで、作業が行なわれた。



別府 矢崎地籍。天竜と松川の合流点付近



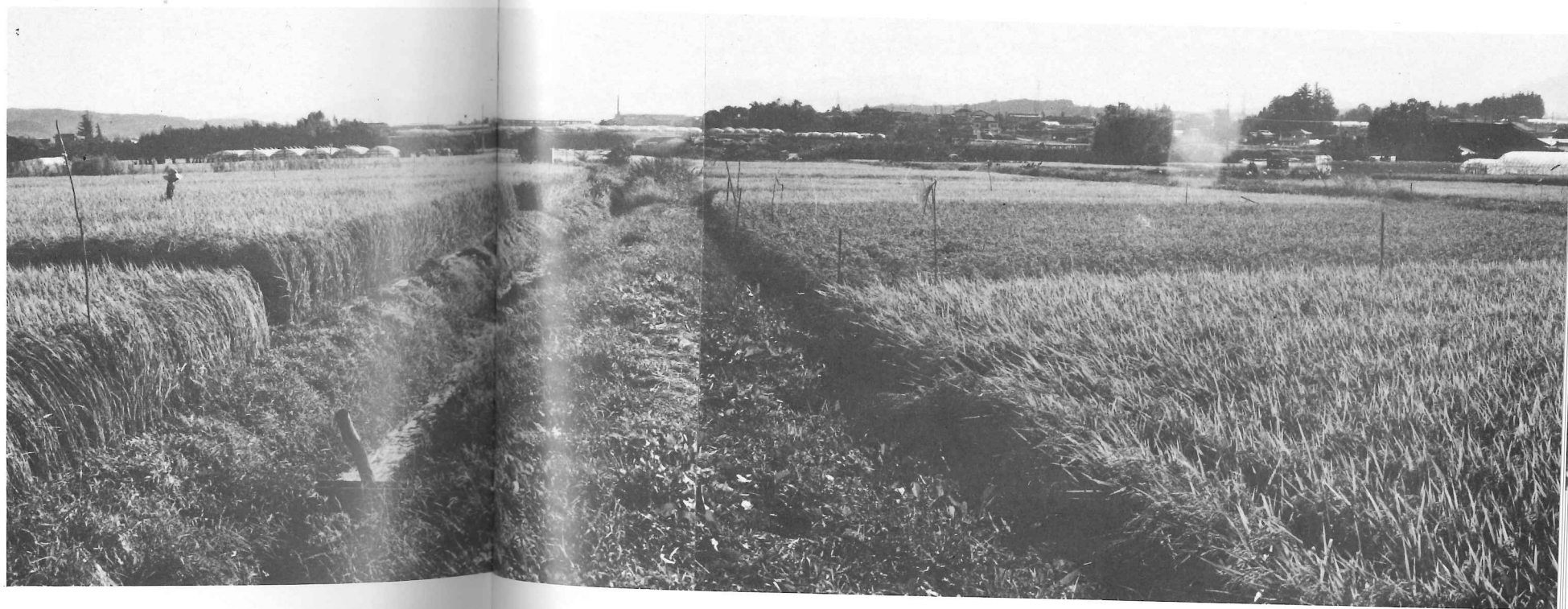
復旧なった同所



現在の同所



別府 初崎。四間井から溢流
粟沢川堤防から下流を写す。



現在の同所



土曾川 金井戸橋下から上流を望む。(橋は流失)



土曾川 堂垣外橋付近



復旧なった同所



現在の同所



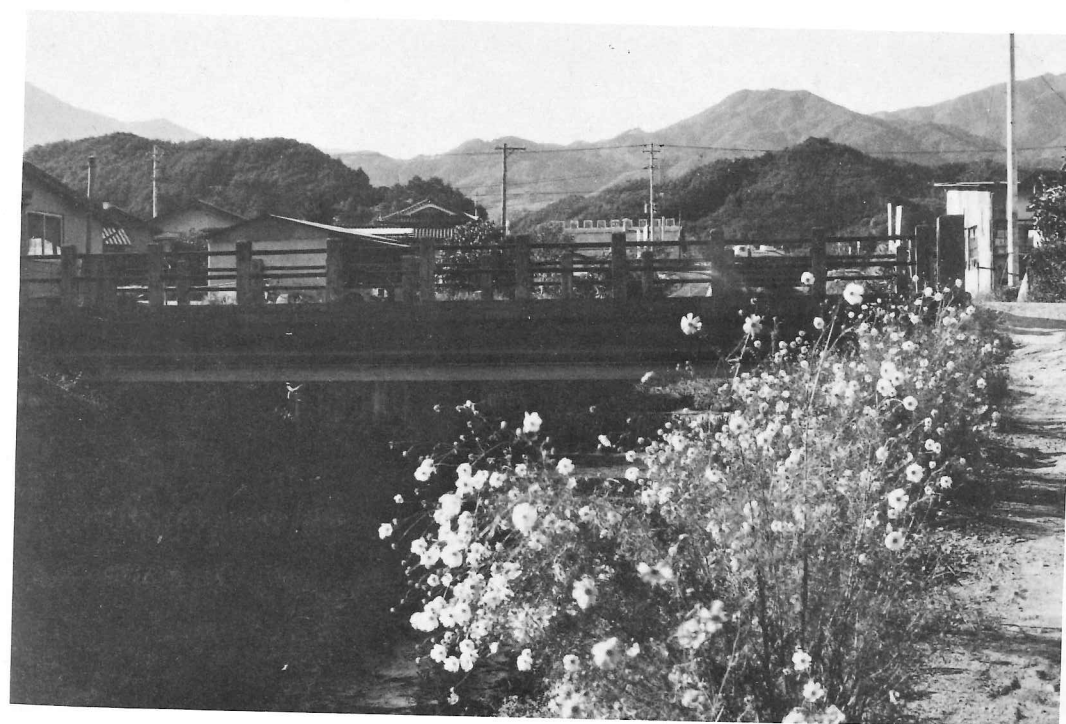
土曾川 国道上。竹やぶの右側が本流。左側は農地が流失した。



崩壊した土曾川 五郎田橋。遠方に国道の隧道が、半分以上埋って見える。



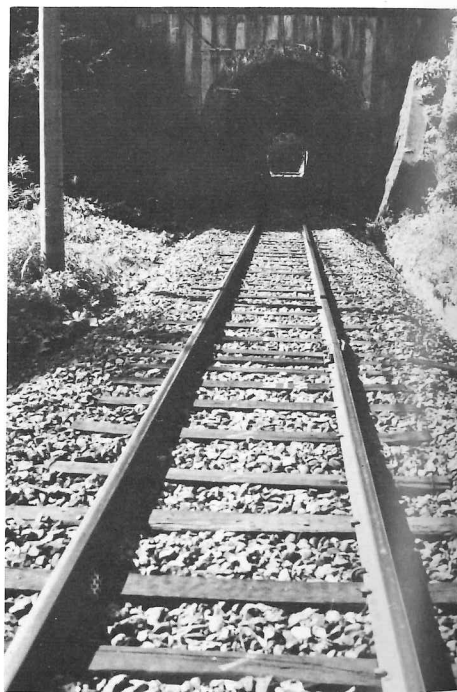
復旧した同所



現在の同所



寺井崩落により、宙づりとなった飯田線。



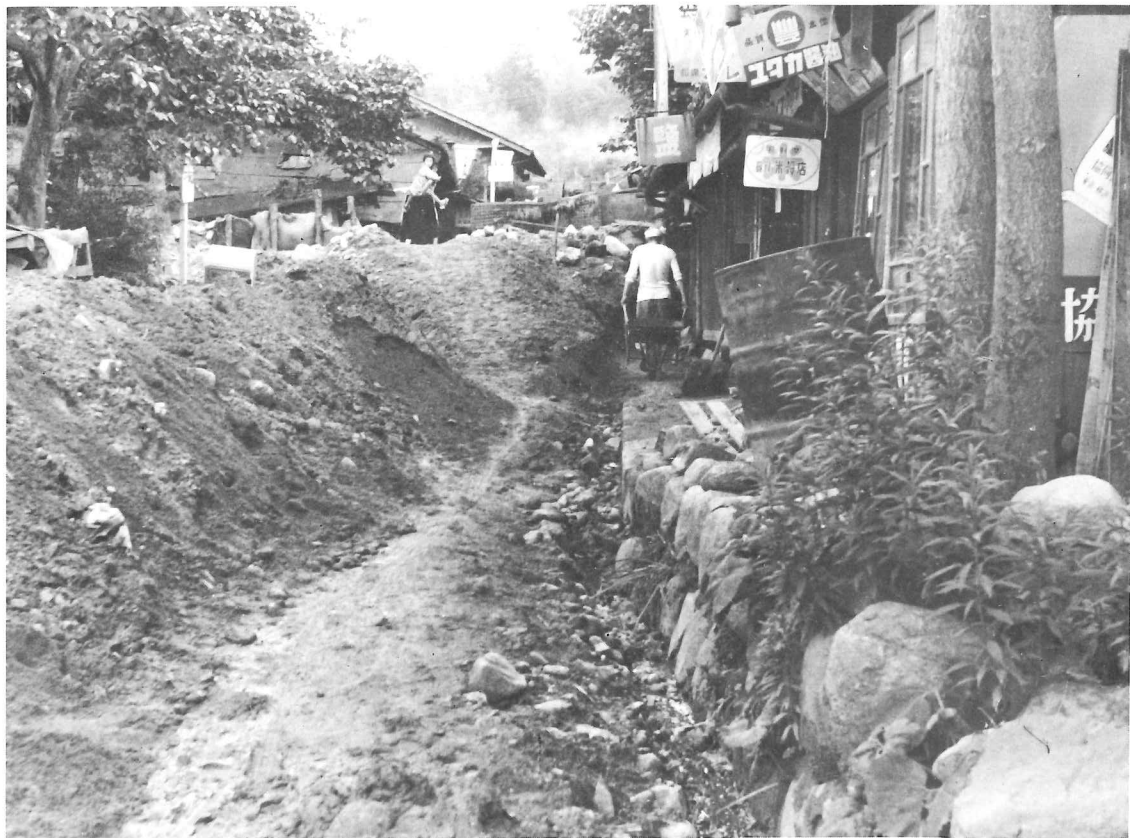
現在の同所



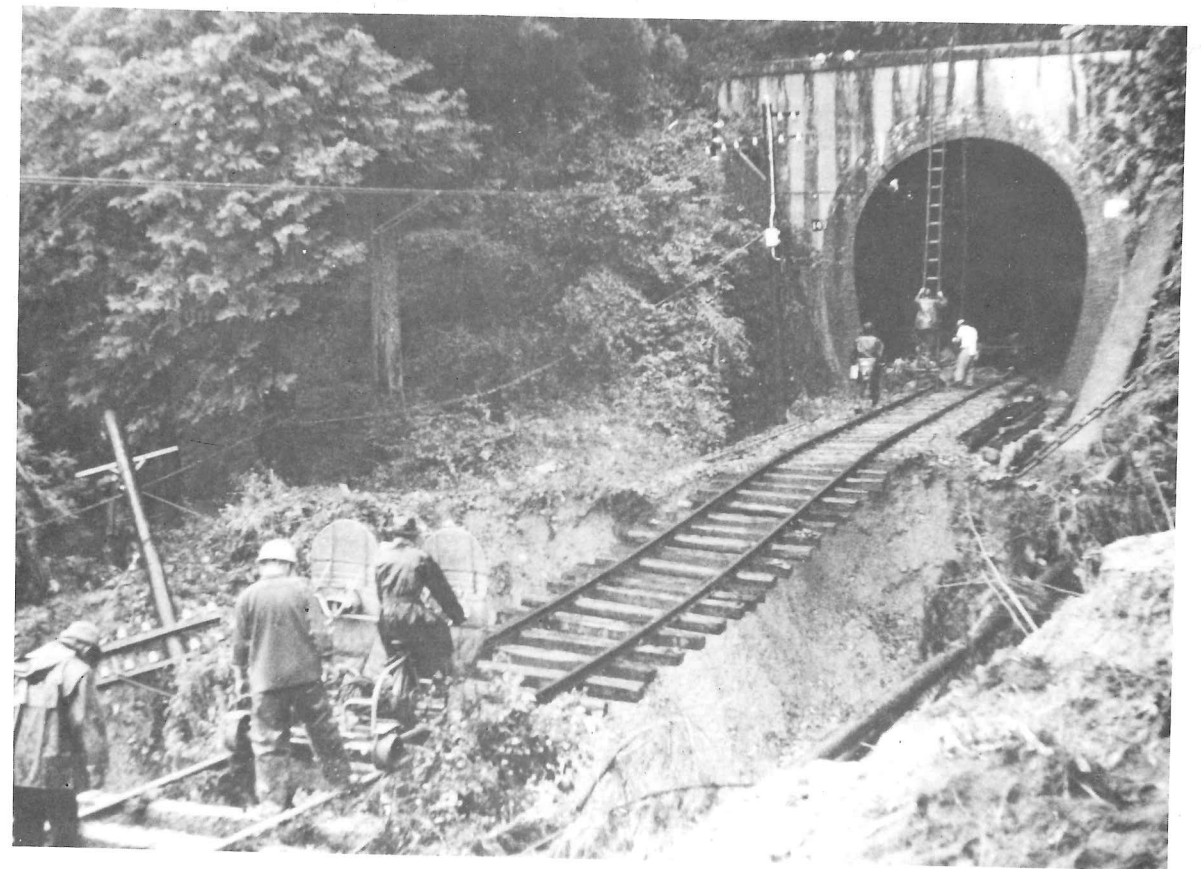
一貫水路橋。土石流により埋まってしまった。(土曾川)



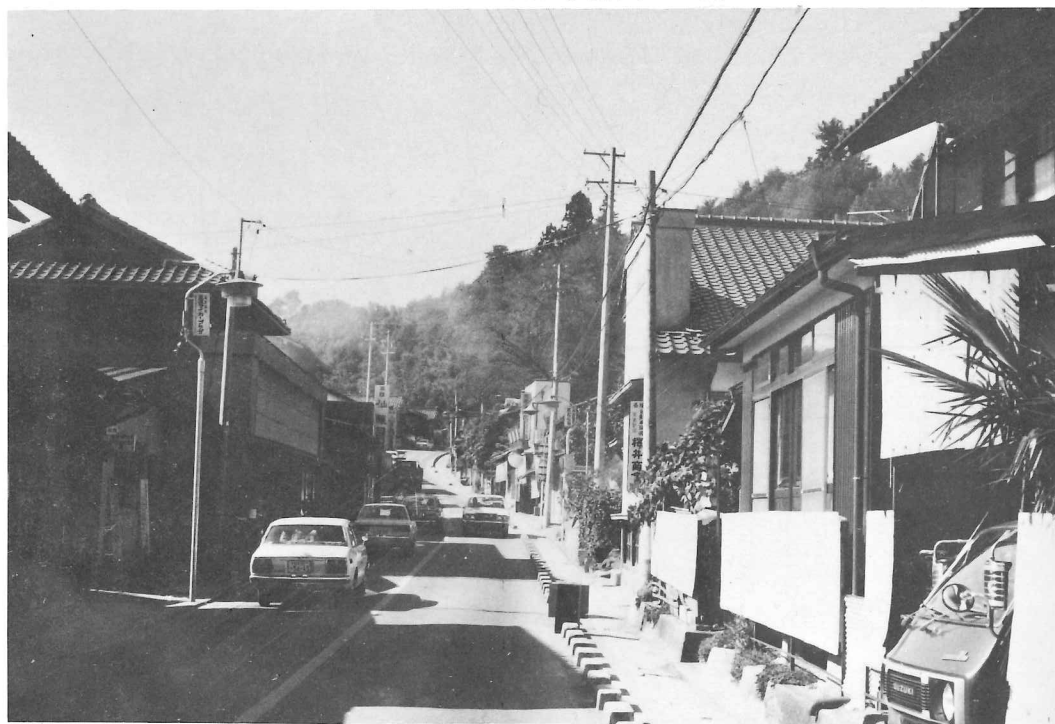
現在の同所



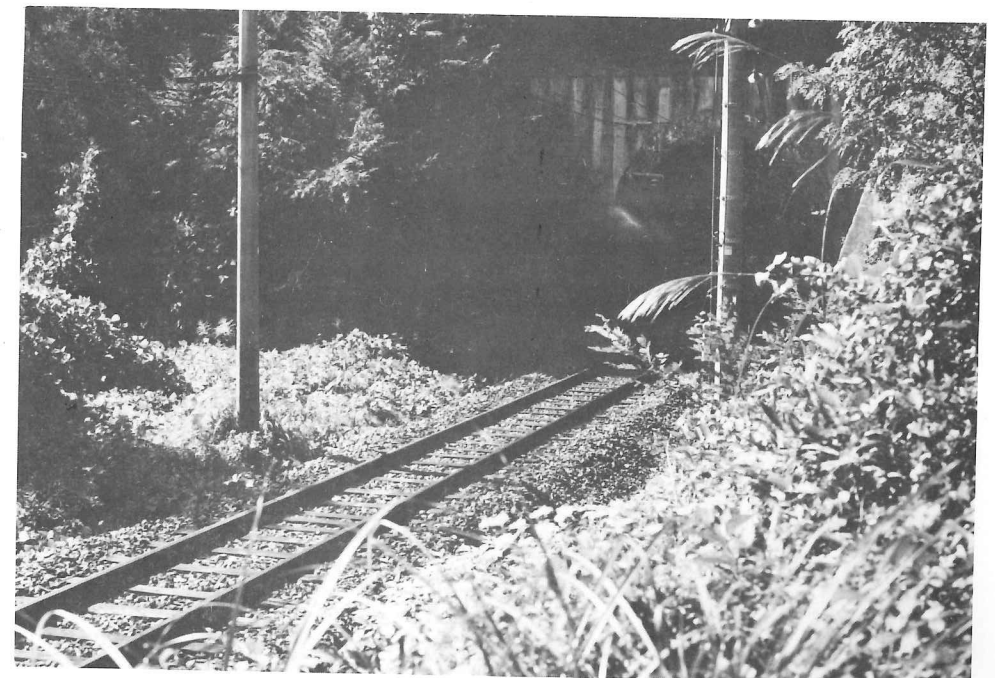
飯沼 小松屋付近。 鉄道の崩落が寺井に流入し、下流の民家に堆積し、排除している。



飯沼 神社下トンネル付近



現在の同所



現在の同所



高松病院西側。激しい雨に、道路が川となっている。



別府 加賀沢川の氾濫により、農協流通センター下の交差点で、道路寸断。



現在の同所



現在の同所



上空から

- ① 飯田高校
- ② 国道 153 号線
- ③ 中電社宅
- ④ 蟹江医院
- ⑤ 野底川源流
- ⑥ 污水处理場 (旧)
- ⑦ 野底川河口 (旧)
- ⑧ 飯田橋
- ⑨ 松 川
- ⑩ 天王原 (城東)



山田 (鋤柄さん畑の下)。道路が深く切断された。(仮橋は応急措置)



現在の同所



① 被災後の都出（北側）

② 災害の原因のひとつ
となった、桜町境の
鉄道隧道（南側）



③ 隧道取壊し作業



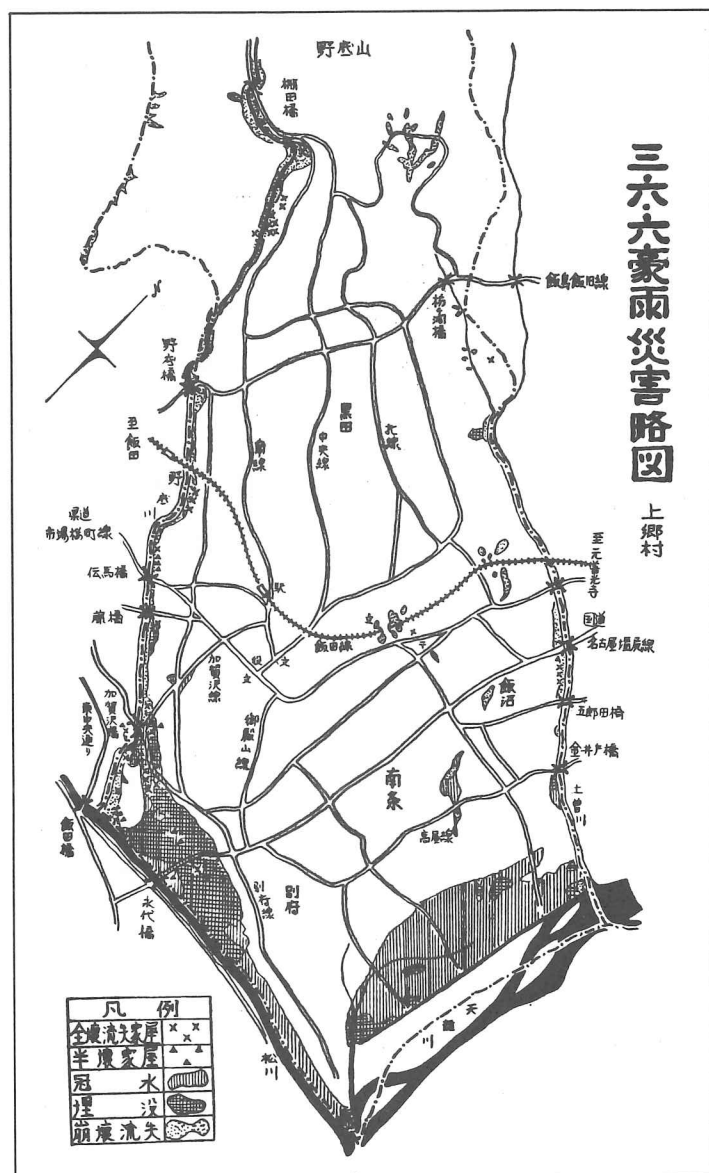
④ 新しい鉄橋と
都出橋の完成



加賀沢の堤防決壊により、天王原は、一面、砂河原となってしまった。（夜泣石下付近から下方を写す）

諸 資 料

未曾有の記録集



限にとどめる努力をお互いにほどこそう。
『ふたたび大災害が、訪れないためにも』



野底上流 楨林橋

昭和三十六・六梅雨前線豪雨 災害概要

昭和三十六年六月梅雨前線豪雨災害は有史以来ともいふべき大災害であつた。

この大災害をひき起した昭和三十六年六月二十七～三十日の洪水は、所謂「梅雨末期の豪雨」に起因するもので、各河川は既往の最高水位をはるかに突破する大洪水となつた。

すなわち、梅雨前線の停滞に伴つて二十三日から降り始めた雨は断続的であつたが、六号台風の接近と共に二十七日から次第にその強さを増し、正午頃には時間雨量五～三五ミリの強雨となり二十八日未明まで約三十時間にわたり断続した。その後幾分弱まったが引続き時間雨量二～一〇ミリ程度で三十日迄の連続雨量は飯田附近で五六三、七ミリとなり恵那山では実に八六二ミ리를記録して、既往最大連続雨量をはるかに上回る降雨となつた。

本村においても次のような大被害を受けた。

一、人的被害

死亡三名、負傷五名

待避収容一三〇〇名、三三〇世帯（上郷小学校、農協、保育園、

図書館、高校、天理教会）

二、家屋の被害

流 失	三一世帯	一三六八	八〇、〇〇〇、〇〇〇円
半 壊	一七世帯	六四八	三〇、〇〇〇、〇〇〇円
床上浸水	八〇世帯	三五一人	一〇、〇〇〇、〇〇〇円
床下浸水	一五〇世帯	六〇一人	五、〇〇〇、〇〇〇円

三、道路の被害

流 失	三、〇一〇 m	一四、八五〇、〇〇〇円
決 壊	一、八七〇 m	四、二〇〇、〇〇〇円
埋 没	七〇〇 m	七〇〇、〇〇〇円

四、橋梁の被害

流 失	六	二〇、〇〇〇、〇〇〇円
決 壊	三	三、〇〇〇、〇〇〇円

五、耕地の被害

施 設	六〇ヶ所	五〇、〇〇〇、〇〇〇円
農 地	三五丁歩	二五、〇〇〇、〇〇〇円

六、林道の被害

流 失	一、一七九 m	三五、三七〇、〇〇〇円
埋 没	一、〇五〇 m	三一、五〇〇、〇〇〇円
橋梁流失	一四	二五、〇〇〇、〇〇〇円
決壊	三	五、〇〇〇、〇〇〇円

七、林産物の被害

木 材	三〇、〇〇〇石	六〇、〇〇〇、〇〇〇円
竹 材	一〇、〇〇〇	三〇〇、〇〇〇円

八、林地の被害

崩 落	一五 ha	六〇、〇〇〇、〇〇〇円
農作物の被害	三八 ha	一三三、〇〇〇、〇〇〇円

しかしながら、国、県を始め関係各方面の御協力と御指導と更に村民各位の力強い復興意欲の結集は、

村において

耕地関係	七〇、二四六、〇〇〇円
公共土木関係	四一、八八八、〇〇〇円

林道関係
九三、七一五、六〇〇円
県において
治山関係
六八、一一一、〇〇〇円
野底川関係
四七三、五八二、〇〇〇円
土曾川関係
二四〇、九七四、三〇〇円
姫宮えん堤
八七、四八九、〇〇〇円
野底えん堤
五二、一〇一、〇〇〇円
の大復旧事業をなしとげ、特に天王原地区一帯に都市区画整理事業を
実施し、市街地化をはかったことは画期的なものである。
しかし、未だ村内には被害の爪跡が若干残ってはいるが、総じて禍
を福となし得ることができ、災害復興記念碑建立をみる事ができた。

郷土の主な災害史

発生年月日	被害状況
正徳五・ 六・一七	雨二十四日続く。「未満水」という。 野底川氾濫し大石を流し出す。飯田領損害調 一、田畑流失七八〇〇余石、流失（半流失）家一 一八軒、死者三二人、流失馬六〇疋、水押 半潰家六二軒、落橋九外 風越山諸山一時に崩し飯田を襲わんとし人民立 退、一八〇年以來の大洪水と伝えられている。 別府村 田九町四反六セ、畑三町一反一セ余 土曾川通り 八段流失、

寛政元・ 六・一八	大満水「西満水」 六月七日、十八日まで大雨 降り止まず。山崩並に小沢の類出水にて諸方村々 田畑流失、人家も夥しく押流され、天竜筋は流死 の人々多数。 十八日八つ時松川の上橋、野底川の上橋落ちる。 天竜川出水夥しく、正徳の出水よりも甚だし。土 曾川筋大被害。
天保七・ 八・一三	大風 十三日夕方から三時間にわたって吹き、 雨も強く降る。この風の被害は非常に大きく、座 光寺だけでも居宅を吹き潰されたもの十一軒、納 屋など多く潰れる。樹木の倒れたもの多数、飯沼 十軒、下黒田八軒、竜坂明神の森風倒木多し。
慶応元・ 五・一七	大満水 潤五月十五日昼後より降雨、十六日同 雨、十七日に至大雷雨、風有、天竜川大満水。正 徳五年の満水以來大満水也。田畑流失多分也。洪 水にて加賀沢、野底橋流失、野底橋の流村にて加 賀沢橋欠ける上街道の橋不残流失、家屋の流失相 当あり。
明治二九・ 七・二二	大洪水、被害甚大。上郷、飯沼、南条、別府、 天竜川沿い一六町五反、松川筋、葉師下一町八反、

大正五・ 一一・一〇	豪雨にて小伝馬橋大破、修繕費飯田七割、上郷 三割で行なう。
昭和二八・ 七・	大豪雨 七月十七日から二十日まで豪雨、飯田、 下伊那地方で死者七名、行方不明九名、負傷者一 六九名、流失家屋九三戸、この罹災者四三一名。 天竜川とその水系の河川を氾濫させ、堤防決かい 田畑を流失させた。
昭和二八・ 七・二八	夜、大雷雨 土曾川氾濫、耕地流失一町三反、 溜池決かい、護岸決かい五〇〇m。
昭和三二・ 六・二七 二八	台風五号 降雨四〇ミリ/時、日雨量二〇〇ミ リ超す。耕地流失四反、耕地埋没二町、冠水三〇 町、橋梁流失三橋、堤防決かい三三〇m。 林道決かい六八〇m、林道橋四橋流失、山地崩 かい一三町。
昭和三四・ 五・二九	「内山煙火工場爆発事故」 別府、内山煙火工 場の爆発により全国でも稀れな大被害を生じた。 爆発発生時間 一四時二六分 気象状況 天候晴、風向北西、風速三、二m 気温二六、七℃、湿度三六%、実効湿度七五% この爆発事故により多数の死傷者と火災が発生。

昭和三四・ 九・二六	台風一五号「伊勢湾台風」 飯伊地方を九月二十六日夜半から二十七日早朝に かけ、通り抜けた超大型台風一五号の襲来で、当 地方は甚大な被害を蒙った。 飯田測候所の観測によると、九月二十六日午前十 時二十三分、最大風速三七mを記録。平均最大風 速は、同時刻前後一時間くらいが最も強く二〇五 mとなっている。雨量は、飯田一〇八、三ミリ、恵 那山二一九ミリ、大鹿笹山六四ミリ、平岡二〇七 ミリ。 被害状況 上郷村 全壊二、半壊六、一部損壊一〇〇
昭和三六・ 六・二七	「三六梅雨前線豪雨」 昭和三十六年六月下旬、梅雨前線の停滞により集 中豪雨となり、全面に亘って甚大な被害を受けた。 過去二六〇余年前に発生した正徳五年「未満水」

の再来ともいわれ全く予想もしなかった大被害で被害総額は一〇億円に達した。
六月二十三日から降り始めた雨は、断続的であったが、六号台風の接近とともに二十七日から次第にその強さを増し、二十八日未明まで約三〇時間にわたり続いた。その後幾分弱まったが三十日までの連続雨量は五六三、七ミリ、恵那山では八六二ミリを記録した。

月 日	降 雨 量 (ミリ)	月 日	降 雨 量 (ミリ)
六月二三日	三、八	二七日	三二五、三
二四日	二九、〇	二八日	五二、五
二五日	二〇、五	二九日	二七、六
二六日	七二、三	三〇日	三二、七

被害状況等別記



昭和三十六年 梅雨前線豪雨について

元飯田測候所長 原 口 勘 助

六月二十七日飯田地方を中心として襲った大豪雨は正に歴史的規模のものであり、そのもたらした災害も又未曾有のものとなったが以下これについて気象の概様を申し述べます。

一 気象概況

飯伊地方は六月に入ってから晴天が続き梅雨模様の天気は殆んど見られず、雨量が少く県中部以北では水不足となり所々干害が伝えられていた。これは高層において中国大陸南部から本邦の南にかけて強い高圧帯が根を張っていたので、低気圧が本邦に近づくことができなかったためと考えられる。しかしこの高層の高気圧も二十三日から急に弱り始め本邦の南岸沖に弱い梅雨前線が発生し二十四日には九州南方の弱い熱帯性低気圧の影響も加って午後から四国南部に強い雨が降り始めた。二十五日には強雨域は紀伊半島南部に移り大雨に見舞われた地方からは早くも水害ニュースが伝えられて来た。二十六日には梅雨前線は関東から東海近畿四国地方に延び強雨域は早朝には近畿全般をおおい、次第に東海地方に波及した。そして二十六日夜半頃から四国南方にあった台風六号の影響が大きく加って梅雨前線は著しく活発になり、強雨域での雨は更に強いものとなり、そしてこの強雨域は徐々に北上した。飯田地方は二十六日午前中並雨が降りその後は小雨となっていたが、大雨は必至と予想され十一時四十五分大雨注意報が発令された。二十七日は今回の豪雨期間中最も広範囲に強い雨の降った時で前線は関東から北陸の低気圧をへて、中部山岳部近畿四国から

九州へ延び、台風六号の東側を北上した南方の暖湿空気の影響で強雨域は飯伊地方を中心に東は関東北部からさらに東北南部に達し又西は東海近畿四国にまで及んだ(第一図参照) 飯田地方の雨は正午頃よりがぜん猛烈となり集中豪雨の典型的なものとなった。

当時の気象状態を高層天気図等から判断すると西方から近づいた気圧の谷は本邦東方沖の強い高気圧の壁に押えられて極めて狭い区域となり、その前面へ台風六号の北上に伴った南からの非常に湿った空気が舌状の噴流となって流れこみ、これが丁度飯田地方の上空に当たったものと推定される。その上この気流は極めて不安定であったため、リーダー(名古屋地方気象台)によると伊那谷は一面にもすごい積乱雲がおおい集中豪雨を降らせたものと考えられます。

二十八日には気圧の谷は東に抜け梅雨前線は一時的に南にさがり、ホコ先は関東南部や伊豆地方に向けられ猛威をふるっていた。その後も大雨となり易い気圧配置はあまり変わらず二十八日夜には新たな湿舌がやや東によって入って来たため県の南東部に集中豪雨を降らせ諏訪湖を氾濫させた。二十九日以降は梅雨前線は次第に北上して強雨域も山陰から次第に奥羽南部に移行し当地方の天候も徐々に回復に向った。

以上概略説明のとおり、今次の梅雨前線豪雨は長い間にわたり、北海道を除いて全国各地で多くの被害を生じたがその間最も強烈であった二十七日の豪雨の中心が飯伊地方に当り、このために当地方が未曾有の大災害をこうむったのであります。

二 飯田地方の降雨状況

集中豪雨につらなる連続的な雨は二十六日零時より降り始めたが、二十六日午前中一時並雨となった他は二十七日明け方頃まではその強度も小雨程度で早天の慈雨という声もあった。そして二十七日朝から

は並雨となり正午頃よりがぜん猛烈な雨あしとなり、いわゆる篠つく強雨はいささかの衰えも見せず夕方十九時過ぎまで降り続いた。この間の雨量は約一七〇ミリで集中豪雨の典型的なものであった。そして雨はその後多少小降りとなった時もあったが依然降り続き二十八日四時過ぎようやく衰えた。その間二十三時を中心に第二回の豪雨更に二十八日三時を中心に第三回目の豪雨があり、いずれも二時間ばかりの間に約五〇ミリの雨となっており、これらが災害の拡大に拍車をかけたものと思われる。(第一表参照)

飯田測候所の観測では二十六日〇時から三十日一四時までの連続降雨量は実に五〇〇ミリとなり明治三十一年測候所開設以来の大記録で従来の第一位昭和二十五年六月九日一十四日の三四九ミリを四割余りも上廻っている。又被害に最も密接な関係があるといわれる日雨量は(二十七日九時一二十八日九時の間)三二五ミリの大記録となり従来の記録昭和十五年六月十七日の三一ミリの五割余りも超過した。

これらは今回の豪雨がいかにか大きかったかを如実に示したものである。尚一時間最大雨量は十三時頃に四〇ミリとなったが、これは雷雨等の短時間強雨がある関係で第六位に止まっている。

次に二十七日(二十六日九時一二十七日九時)の降雨量の分析は第二図のとおりで三〇〇ミリ以上の区域は恵那山一飯田一高森山にかけての区域であって、この域内での被害は劇烈であった。又二〇〇ミリの等雨量線は摺古木山の南より駒ヶ根附近をとり伊那里方面に達しており、これより北の方は次第に雨量も少くなっている。そして被害の大きかった地域の限界もほぼこの二〇〇ミリ等雨量線と一致しているようである。

三 過去の洪水について

川路村水防史、飯田近世郷土年表等を参考に過去の洪水について調

査した結果概様は次のとおりです。

天正元年(一五七三年)より今日に至る三八九年間に一六八回の洪水があり、一応の区分として中小洪水は一一九回、大洪水は四九回、そのうち特大洪水(後出)と見られるものは七回あった。即ち平均的には約二年に一度洪水となり、そのうち大洪水は大体八年に一度の割合で平均三回の洪水一回の割合で起きていることになります。(しかしこれはあくまで平均的なことで過去の例をみても洪水は続発する傾向があるようですからこの点特に留意されたい)

次に全洪水の月別発生回数をみると九月(月日は新暦になおしてある)に一番多く二六回、次いで八月(二一回)七月(二〇回)が多く以下六月(一三回)十月(八回)五月(五回)四月(四回)の順となっていて唯一回(一弱)の月は一、二、三月で全く発生していないのは十一、十二月である(但し不明一回)。しかし大洪水だけをみると九月七月がともに一回(二回以下回数)の二倍が%となる)六月一〇回が最も多く、次いで八月十月が七回、更に五月に二回、四月一回となっている。又原因別に推定してみると全洪水では台風によるもの最も多く、五二%、梅雨前線によるもの三三%、その他(低気圧等)一四%となっている。しかし大洪水の場合は台風によるもの五二%、梅雨前線四五%となり両者の比率は接近してくる。

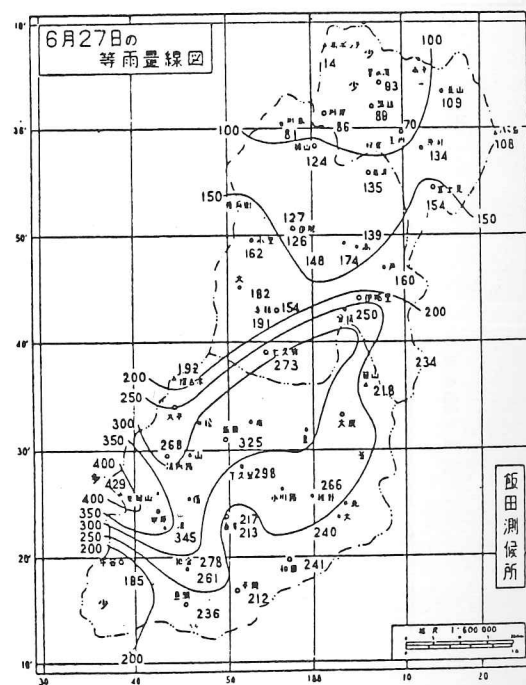
更に七回の特大洪水については梅雨前線によるもの四回、台風によるものは三回である。これにより非常に大きな洪水については台風よりむしろ梅雨末期の大雨が恐ろしいものであることがよくうかがい知れます。

尚史上に残る過去最大の大洪水は正徳五年未満水(一七一五年七月十八日)と目されているが川路地区の満水状況は今回のものと殆んど同様であったと推定されます。

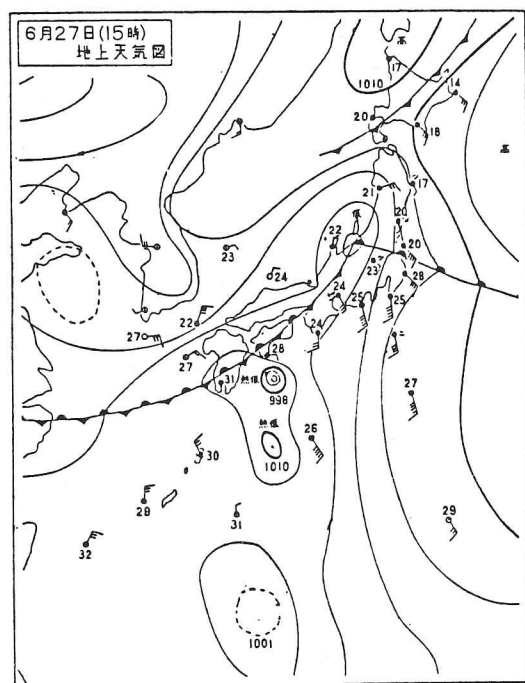
特大洪水表

	西 歷 年 月 日	年 号	呼称原因 (カッコは推定)
7	一七二五、七、一八	正徳 五年六月一八日	未満水 (梅雨前線)
6	一七八九、七、二〇	寛政元年 六月一八日	西満水 (同)
5	一八〇四、一〇、二	文化元年 八月二九日	子満水 (台風)
4	一八二八、八、一一	文政一年七月 二日	子満水 (同)
3	一八六五、七、二〇	慶応元年 五月一八日	(梅雨前線)
2	一八六八、九、一六	明治元年 八月 一日	辰満水 (台風と前線)
1	一九六一、六、二八	昭和三六年六月二八日	梅雨前線

第2図



第1図





第1表

地名	時 日	9時 日量								
		9	10	11	12	13	14	15	16	17
飯田測候所	23	0	2	6	10	0	1	1	1	1
	24	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	25	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	26	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	27	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	28	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	29	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	30	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1
笹山無線ロポット	23	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	24	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	25	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	26	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	27	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	28	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	29	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	30	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1
恵那山無線ロポット	23	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	24	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	25	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	26	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	27	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	28	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	29	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	30	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1
摺古木山無線ロポット	23	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	24	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	25	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	26	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	27	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	28	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	29	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	30	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1

○印 災害救助法発令市町村 (昭和36年8月)

被害状況調査

市町村名	災害 死者 数	人的被害		住家被害		被溺		被水		合計	住家被害
		死	行方不明	全壊	半壊	流失	浸水	床上	床下	世帯人員	
川	7,541	2	1	5	5	2	6	44	50	1,685	7,536
松	5,603	7	6	30	30	29	113	23	118	1,077	5,554
高	2,473	10	17	23	118	42	202	43	210	565	2,445
阿	19	-	-	1	5	-	2	2	6	5	19
阿	1,209	-	5	3	12	26	131	16	60	266	1,204
上	1,178	1	3	12	13	6	22	15	15	176	1,159
清	969	2	1	14	14	4	13	6	24	237	964
阿	555	-	-	3	3	2	4	2	83	130	555
浪	228	-	-	1	16	2	1	1	125	130	228
平	35	-	-	1	2	1	15	1	50	55	35
根	138	-	-	1	4	-	-	5	20	32	138
下	42	-	-	-	-	-	-	-	15	15	42
天	42	-	-	-	-	-	-	-	81	32	42
竜	159	-	2	1	5	5	19	9	7	8	39
泰	13	-	-	1	1	5	19	9	48	35	157
千	13	-	-	9	9	43	13	13	54	275	1,226
江	1,227	1	-	9	9	-	-	1	6	275	1,226
上	194	-	-	4	4	-	-	5	19	42	194
喬	2,054	2	3	8	14	5	25	17	87	381	2,046
鹿	2,432	2	4	18	18	25	115	29	123	492	2,408
大	2,808	55	42	66	69	51	163	45	204	506	2,111
上	46	-	7	4	4	20	-	1	2	9	39
南	651	-	13	12	12	5	32	-	-	142	638
計	29,616	82	84	221	225	203	860	275	2831	6,039	28,750
飯	26,362	16	19	218	2651	62	254	245	2641	6,151	26,013
合	55,978	98	2,103	439	4902	265	2731	547	5472	12,210	54,763

耕地被

	農 地												計		
	流 失						埋 没								
	田			畑			田			畑					
	か所	数量	被害額	か所	数量	被害額	か所	数量	被害額	か所	数量	被害額	か所	数量	被害額
県	7	0.9	1,588	4	1.0	930	6	1.2	1,234	3	1.0	870	20	4.1	4,622
松川	24	40.4	111,110	14	57.1	20,040	31	55.3	40,300	30	8.2	12,200	99	161	183,650
高森	40	53.1	122,450	6	1.5	1,960	41	100.8	128,700	5	1.8	1,600	92	157.2	254,710
阿南	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
上郷	11	10.9	25,700	1	0.1	50	7	28.2	11,370	-	-	-	19	39.2	37,120
清内路	-	-	-	1	0.2	70	-	-	-	2	1.0	1,180	3	1.2	1,250
阿智	15	18.3	54,900	12	8.7	17,400	60	10.3	20,600	20	1.8	1,800	107	39.1	94,700
浪合	4	0.5	490	-	-	-	3	0.5	220	-	-	-	7	1.0	710
平谷	4	0.6	650	2	0.2	400	9	0.9	680	2	0.4	200	17	2.1	1,930
根羽	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
下条	6	0.5	890	-	-	-	15	1.7	2,490	-	-	-	21	2.2	3,380
売木	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
天竜	1	0.2	500	2	0.2	500	3	3.6	7,200	5	0.3	300	11	4.3	8,500
泰阜	1	1.0	1,600	2	0.9	2,300	10	3.0	1,500	3	0.2	1,100	16	7.1	6,500
千代	2	0.3	120	-	-	-	2	0.2	80	-	-	-	4	0.5	200
竜江	6	0.4	500	-	-	-	20	13.3	37,725	8	18.4	56,570	34	32.1	94,795
上久堅	-	-	-	-	-	-	7	0.9	1,500	2	0.1	110	9	1.0	1,610
喬木	54	24.4	26,600	31	2.7	10,400	60	9.1	15,150	218	3.7	6,300	363	39.9	59,250
豊丘	60	50.2	100,900	62	10.3	20,200	160	101.8	102,700	264	-	44,615	546	257.6	268,415
大鹿	27	71.5	273,900	24	17.4	16,850	25	13.5	40,600	14	-	4,650	90	128.5	336,000
上	3	0.4	720	1	0.3	360	2	0.2	100	5	-	1,550	11	2.4	2,730
南信濃	7	0.3	650	7	6.7	1,465	4	0.1	130	1	-	300	19	1.5	2,545
計	272	293.9	723,268	169	103.3	92,925	465	344.6	413,079	582	140.2	133,345	1,488	882.0	1,362,617
飯田	651	180.0	400,000	262	170.1	80,160	390	190.5	171,500	135	78.4	63,000	1,438	619.0	714,660
総計	923	473.9	1,123,268	431	273.4	173,085	855	535.1	584,579	717	218.6	196,345	2,926	1,501.0	2,077,277

害状況表

農 業 用 施 設											計			
溜 池		頭 首 工		水 路			道 路			橋 梁				
か 所	被 害 額	か 所	被 害 額	か 所	数 量	被 害 額	か 所	数 量	被 害 額	か 所	被 害 額	か 所	数 量	被 害 額
-	-	4	3,299	22	1,280	7,152	5	105	1,358	3	785	34	1,385	12,594
1	90	16	10,280	85	26,770	178,840	5	1,610	4,850	1	200	108	28,380	194,260
117,000	30	223,700	129	19,430	105,460	-	-	-	-	-	-	160	19,430	346,160
1	400	4	1,950	7	181	2,670	12	53	1,660	-	-	24	234	6,680
1	2,800	9	26,060	39	6,022	32,390	7	20	1,050	-	-	56	6,042	62,300
-	-	4	1,800	5	340	2,760	12	2,328	21,117	4	1,140	25	2,668	26,817
-	-	16	4,420	111	3,031	19,760	56	463	4,780	15	3,000	198	3,414	31,960
-	-	1	2,500	9	230	1,910	1	66	1,800	2	1,050	13	296	7,260
-	-	2	300	-	-	-	-	-	-	1	300	3	-	600
-	-	5	480	3	65	750	-	-	-	-	-	8	65	1,330
-	-	7	1,200	51	1,000	5,820	5	20	470	-	-	63	1,020	7,490
-	-	1	200	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	200
-	-	8	1,020	1	-	40	58	600	1,840	3	450	70	600	3,350
-	-	-	-	5	100	1,000	-	-	-	-	-	5	100	1,000
-	-	7	920	4	-	300	-	-	-	-	-	6	-	1,220
3	170	11	3,900	126	4,217	36,518	1	5,200	8,100	-	-	141	9,417	48,688
-	-	-	-	3	80	740	-	-	-	-	-	3	80	740
4	960	14	9,710	73	4,777	53,390	7	1,616	9,000	-	-	98	6,423	73,060
713,620	34	75,300	212	22,124	280,900	9	474	2,450	24	2,500	286	22,698	374,770	
-	-	5	5,000	52	2,279	58,800	13	3,000	7,300	3	4,400	73	5,279	75,500
-	-	-	-	6	170	1,850	-	-	-	-	-	6	170	1,850
-	-	5	850	8	287	1,320	-	-	-	-	-	13	287	2,170
1835,040	178	372,889	951	92,383	792,470	191	15,585	65,775	56	13,825	1,394	107,968	1,279,999	
3420,370	195	106,120	3,006	88,438	961,615	713	42,325	178,880	46	10,855	3,994	130,763	1,277,840	
5255,410	373	479,009	3,957	18,082	1,754,085	904	57,910	244,655	102	24,680	5,388	238,731	2,557,839	

避難所 炊出し実施状況

避難						所	
	実 施		期 間 延 長			場	所
	箇所	期間 人員	箇所	期間	人員		
県	2 4日 1 10日	153 80	1 3日	80		切石集会所、切石作業所、大竜社	
松 川	10 10日	500	6 2日	402		福与公民館、円満場、下峠集会所、峠公会堂、中山旧学校、柄山	
高 森	9 5日 6 9日	426 361	-	-	-	白百合保育園、田島製菓、畜産センター、追分集会所、下平集会	(56) (62) (65) (58) (61)
阿 南	-	-	-	-	-		
上 郷	6 2日 3 10日	700 100	-	-	-	各地公会堂、図書館	
清内路	2 4日	74	-	-	-	西南寺 (40)、念仏堂 (30)	
阿 智	-	-	-	-	-		
浪 合	-	-	-	-	-		
平 谷	-	-	-	-	-		
根 羽	-	-	-	-	-		
下 条	-	-	-	-	-		
売 木	-	-	-	-	-		
天 竜	1 3日	29	-	-	-		
泰 阜	4 10日	101	-	-	-		
千 代	-	-	-	-	-		
竜 江	2 5日	28	-	-	-		
上久堅	-	-	-	-	-		
喬 木	1 6日 1 10日	22 21	1 5日	21		阿島公民館、阿島共同作業所	
豊 丘	1 3日 5 10日	250 610	-	-	-		
大 鹿	6 10日	760	6 10日	760		役場、松平神社、香松寺、旧大河小学校、市場神社、塩原公会堂	(80) (70) (50) (130) (140) (30)
上	1 4日 2 3日	31 83	-	-	-		
南信濃	2 3日	-	-	-	-	大町公会堂、名古屋公会堂	
飯田市	40 10日	4,998	10 8日	1,442		松尾清水集会所、松尾明集会所、竜丘支所、川路第1公民館 川路第4、7、5、8公民館、伊賀良北方飼育所、羽場中央公民館	

	炊 出 し						期 間 延 長 調							
	実 施			期 間 延 長			被 服 寝 具	死 体 捜 索			障害物除去		死 体 理 理	埋 葬
	箇所	期間	人員	箇所	期間	人員		対象人員	夫 人 延 長 期 間	対象人員	延 長 期 間	延 長 期 間	延 長 期 間	
会 所 、山吹支所外 (59)	2 4日	153	1 6日	80	7月15日	-	-	-	37月13日	-	-	-		
	1 6日	80												
	10 6日	500	6 6日	500	全	-	-	-	-	-	-	-		
	9 5日	426	6 6日	361	町	2	107月17日	-	-	7月17日	7月17日			
	6 6日	361			村	-	-	-	-	-	-	-		
	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
	6 2日	700	2 6日	60		-	-	-	-	-	-	-		
	3 6日	100				-	-	-	-	-	-	-		
	2 4日	74	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
	1 3日	29	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
	4 6日	101	2 4日	80	-	-	-	-	-	-	-	-		
	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
	2 6日	28	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
	2 6日	43	1 6日	21	-	-	-	-	-	-	-	-		
	1 3日	250	5 6日	500	-	-	-	-	-	37月13日	-	-		
	5 6日	610												
	7 6日	760	6 6日	760	23	207月17日	27月17日	7月17日	7月17日					
	1 4日	31	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
	2 3日	83	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
2 3日	100	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
40 6日	4,998	10 6日	1,442	7月12日	5	107月17日	197月17日	-	7月17日					

救 援 物 資 配

町 村 名	1 毛 布	2 シ ヤ ッ	3 ラ ン ニ グ	4 手 拭	5 下 駄	6 ナ ベ	7 カ マ	8 ヤ カ ン	9 ホ ー 丁
品 名 単 価	802	245	100	30	100	200	400	250	120
県	64 51,328	88 21,560	199 19,900	378 11,340	190 19,000	6 1,200	4 1,600	6 1,500	6 720
松 川	214 171,628	252 61,740	556 55,600	873 26,190	439 43,900	57 11,400	45 18,000	57 14,250	57 6,840
高 森	96 76,992	113 27,685	251 25,100	377 11,310	188 18,800	26 5,200	20 8,000	26 6,500	26 3,120
阿 南	7 5,614	8 1,960	18 1,800	33 990	16 1,600	1 200	1 400	1 250	1 120
上 郷	94 75,388	116 28,420	254 25,400	422 12,660	210 21,000	21 4,200	16 6,400	21 5,250	21 2,520
清 内 路	46 36,892	51 12,495	100 10,000	121 3,630	62 6,200	20 4,000	15 6,000	20 5,000	20 2,400
阿 智	105 84,210	134 32,830	279 27,900	401 12,030	222 22,200	23 4,600	13 5,200	15 3,750	20 2,400
浪 合	8 6,416	8 1,960	16 1,600	16 480	8 800	4 800	3 1,200	4 1,000	4 482
根 羽	1 802	1 245	2 200	5 150	2 200	-	-	-	-
下 条	6 4,812	8 1,960	18 1,800	36 1,080	18 1,800	-	-	-	-
天 竜	1 802	1 245	3 300	6 180	3 300	-	-	-	-
泰 阜	15 12,030	16 3,920	39 3,900	47 1,410	22 2,200	6 1,200	4 1,600	6 1,500	6 720
千 代	2 1,604	2 490	5 500	10 300	6 600	-	-	-	-
上 久 堅	10 8,020	12 2,940	24 2,400	37 1,110	19 1,900	2 400	2 800	2 500	2 240
喬 木	70 56,140	86 21,070	192 19,200	310 9,300	156 15,600	15 3,000	11 4,400	15 3,750	15 1,800
豊 丘	140 112,280	170 42,875	417 41,700	680 20,400	336 33,600	33 6,600	28 11,200	33 8,250	33 3,960
上	3 2,406	4 977	8 800	9 270	4 400	1 200	1 400	1 250	1 120
南 信 濃	85 68,170	112 27,440	221 22,100	412 12,360	191 19,100	21 4,200	14 5,600	37 9,250	20 2,400
総 計	967 775,534	1,182 290,812	2,602 260,200	4,173 125,190	2,092 209,200	236 47,200	177 70,800	244 61,000	232 27,840

分 一 覧 表 (第1次分)

10 バ ケ ッ	11 茶 ワ ン	12 石 ケ ン	13 チ リ 紙	14 ロ ー ソ ク	15 ズ モ ン ペ	16 ハ シ	17 歯 ブ ラ シ	18 歯 磨 粉	計 金 額
100	15	15	15	50	413	1.40	3.50	15	
6 600	30 450	88 1,320	8 120	8 400	32 13,216	15 21	15 52	6 90	144,417
57 5,700	554 8,310	249 3,735	138 2,070	138 6,900	169 69,797	277 387	277 969	57 855	508,271
26 2,600	246 3,690	113 1,695	62 930	62 1,550	78 32,214	123 172	123 430	26 390	226,378
1 100	8 120	8 120	2 30	2 100	4 1,652	4 5	4 140	1 15	15,216
21 2,100	163 2,445	117 1,755	41 615	41 1,000	65 26,844	82 114	82 287	21 315	216,713
20 2,000	157 2,355	50 750	39 585	39 750	42 17,345	78 109	78 273	20 300	111,284
12 1,200	86 1,290	94 1,410	59 885	22 1,100	64 26,432	73 102	78 273	32 480	228,292
4 400	32 480	8 120	8 120	8 400	8 3,304	16 22	16 56	4 60	19,698
-	-	1 15	-	-	1 413	-	-	-	2,025
-	-	8 120	-	-	2 826	-	-	-	12,398
-	-	1 15	-	-	-	-	-	-	1,842
6 600	50 750	16 240	12 180	12 600	14 1,652	25 35	25 87	6 90	32,714
-	-	2 30	-	-	1 413	-	-	-	3,937
2 200	22 330	12 180	6 90	6 300	8 3,304	11 15	11 38	2 30	22,796
15 1,500	144 2,160	86 1,290	36 540	36 900	52 21,475	72 100	72 252	15 225	162,702
33 3,300	307 4,605	179 2,685	76 1,140	76 1,900	107 44,189	153 214	153 535	33 495	339,928
1 100	14 210	5 75	4 60	4 200	5 2,065	7 9	7 24	1 15	8,581
20 2,000	200 3,000	90 1,350	50 750	50 2,500	72 29,735	100 140	100 350	20 300	210,745
224 22,400	2,013 30,195	1,127 16,905	541 8,115	504 18,800	724 294,876	1,036 1,445	1,041 3,766	244 3,660	2,267,938

救 援 物 資 配 分 一 覧 表

(第 2 次 分)

No 品 名 町 村 名 単 価	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	計 金 額
	毛 布	シ ャ ツ	ラ ソ ニ グ	手 拭	ヤ カ ソ	バ ケ ツ	モ ソ ベ	ズ ボ ソ	石 ケ ソ	地下 タビ	ヘア ラシ	歯 キ ミ ガ 粉	大 パ ソ ン 人	小 パ ソ ン 人	
県	12 9,600	50 12,500	100 10,000	60 1,800	10 2,500	10 1,000	20 5,000	20 11,000	50 1,000	10 2,500	50 500	50 500	25 2,750	25 2,250	62,900
森 高	110 88,000	300 75,000	300 30,000	500 15,000	50 12,500	20 2,000	250 62,500	204 112,200	100 2,000	150 37,500	60 600	60 600	250 27,500	250 22,500	487,900
上 郷	5 4,000	50 12,500	100 10,000	60 1,800	10 2,500	10 1,000	20 5,000	20 11,000	50 1,000	10 2,500	50 500	50 500	25 2,750	20 1,800	56,850
清 内 路	30 24,000	50 12,500	95 9,500	60 1,800	10 2,500	10 1,000	20 5,000	20 11,000	46 920	6 1,500	50 500	50 500	25 2,750	25 2,250	75,720
浪 合	-	40 10,000	10 1,000	-	-	-	-	-	15 300	-	-	-	-	-	11,300
平 谷	5 4,000	40 10,000	20 2,000	20 600	8 2,000	1 100	5 1,250	5 2,750	20 400	10 2,500	-	-	10 1,100	8 720	27,420
下 天	-	-	10 1,000	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4 360	1,360
竜 代	-	-	-	-	-	4 400	-	-	-	-	-	-	-	-	400
千 久 堅	1 800	-	-	-	-	-	5 1,250	5 2,750	-	-	-	-	5 550	4 360	8,610
上 喬	3 2,400	-	10 1,000	10 300	-	-	10 2,500	10 5,500	-	2 500	10 100	10 100	25 2,750	25 2,250	45,300
木 丘	10 8,000	50 12,500	80 8,000	100 3,000	-	1 100	40 10,000	40 22,000	100 2,000	20 5,000	100 1,000	100 1,000	50 5,500	50 4,500	130,950
豊 計	24 19,200	120 30,000	200 20,000	125 3,750	20 5,000	20 2,000	370 92,500	324 178,200	381 7,620	208 52,000	320 3,200	320 3,200	415 45,650	411 36,990	909,510
総	200 160,000	700 175,000	925 92,500	935 28,050	108 27,000	76 7,600	370 92,500	324 178,200	381 7,620	208 52,000	320 3,200	320 3,200	415 45,650	411 36,990	909,510

災 害 救 援 物 資 配 分 一 覧 表 (現地調達)

市 町 村 名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24
	毛 布	シ ャ ツ	ラ ソ ニ グ	手 拭	下 駄	ナ ベ	カ マ	ヤ カ ソ	ホ 1 丁	バ ケ ツ	茶 ラ ソ	石 ケ ソ	チ リ 紙	ロ 1 ン ク	モズ ソボ	ハ シ	歯 アラシ	歯 ミガキ粉	地下 タビ	マ ツ チ	バ ソ ン	太 井	寝 巻	ヒ シ ヤ ク
上 郷	20	60	89	89	89	22	18	22	22	22	178	50	50	48	64	89	89	89	-	-	-	-	-	-
江 竜	9 11	209 11	-	340 94	450	13	7	10	61	54 70	-	219	425	-	7 11	-	-	-	250	-	56 61	-	-	-
大 鹿	36	10 190	-	-	-	30	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大 鹿	40 80	1,300	-	300	5,310 771	460	-	-	80	80	800	900	-	180 182 676 17	450	-	-	-	1,300	380	10 200	50	60 10	-

当 時 の 生 産 者 米 価

3等米 (標準米) 1俵 60kg 4,302円
1kg 71円70銭

二四六年目の大洪水

梅雨前線の停滞と、六号台風北進の影響で、各地に多大な被害をもたらしたが特に伊那谷が言語に絶する大被害を蒙つた。

六月二十六日以来、連日夕立のように小止みもなく降り続いた雨は、二十七日の夜半から一層猛り狂つてその毒牙はついに上郷全村を恐慌のどん底におとし入れた。全住民は警鐘乱打の中に戦々恐々と夜明を祈つたのであった。

(写真は加賀沢橋附近の惨状)

に荒れに荒れて、野底川沿岸
すものなく洗ひ、更に加賀沢

[illegible]

同時に災害は何故起きたか、という点についての科学的に分かるべきである。天竜川の氾濫は泰の地蔵の人々が閉居く、

皇ダムによる川底上昇が原因である。立場から政治に対する働きかけをの義務である。
(M)

われは「夜泣き石」の話を「現実として眼前に現われ

い伝説のように聞いたものであ
た。だが二十八日早朝、現地の
角に佇ったとき、それが伝説で
く、二五〇年前のひつじ満水が

さながら湖に

野底山 林道は
ついに支えきれず決壊し、上堤
の沢田の堤が、連日の豪雨のため
盛んに、またく湖面状に状態で
満ち、朝霧のみに明けてはる
月日の早朝、轟かの音ではる
ににがしる。田埂では、増水
をもちいらたのである。万一般
側へ決壊したとする趨勢から
見て、荒古時代の何十倍かの被害
なり、考えられても歴然とする
のが、

七〇〇ミリを越す山間部集中豪
は、さしもの野底山林道を、微
水路も全壊されたので、

的に凝滞状態にしてしまったの
れ出動で応急に取入口を作った
のであるが、田は日毎にかわきつ、
ある現状である。

線路も宙ぶらりん

[illegible]

線路

今回の大災害を起した洪水も、水魔の荒しように、今更驚きの爪跡を眺めるとき、誰もがそのため言葉も知らない程であったが

上鄉村公民

[illegible]

に、万全を期して日夜全力を傾け、各団体と合同でと

[illegible]

目でよみがえった。野田川は、
上流一帯をダムに
堰き止めて、
上流の両岸には製材工場の出来る
程の疏木を置いて放ったのである
災害発生と同時に
災害対策本部を設

前である。若しこの急造タ まことに風前の灯であった。

復旧の活動に全力が、その具体的な聞いて発表して

ムの
げ、流

2 負傷者 1 死者

上郷一桜町駅間に出来た線路
畠み

3月所不明
4村家屋
5家屋
6水次上杉
7新田災害
8種喪失
9種災害
10道路決壊、
11堤防浸没
12村家屋被害一
般警は以上の通
明細は順次お知らせ
い。(大買集)

本村も今度の大水害で、災害救助法が適用された。災害救助法に
三、被服、寝具その他生活必
要及び飲料水の供与

[illegible]

上郷村長佐々木

伐採をしているものでありまして 欠水することのできない時期であるの復旧事業について

对策 2

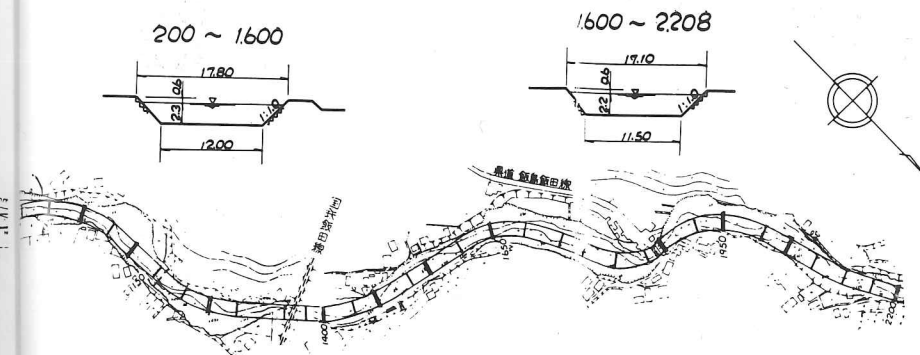
会議員
せられ
ありま
ために
ります
通りで

思えば六月の
ることの出来

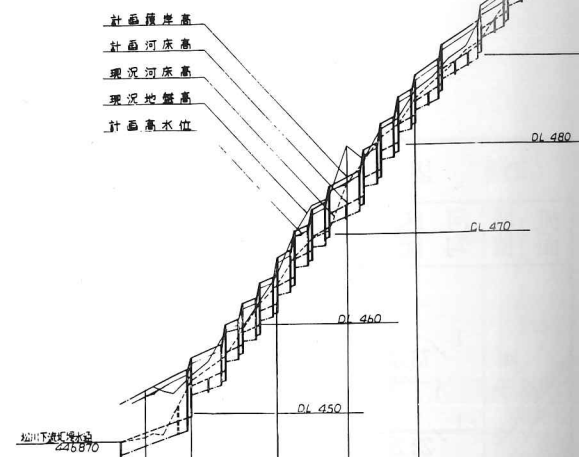
われ打ちのめされたのであろう。天災とはいえ余りにも無慈悲で打ちであった。△わが上郷村に於ては、大被害を蒙った。魔の

復旧関係 野底川

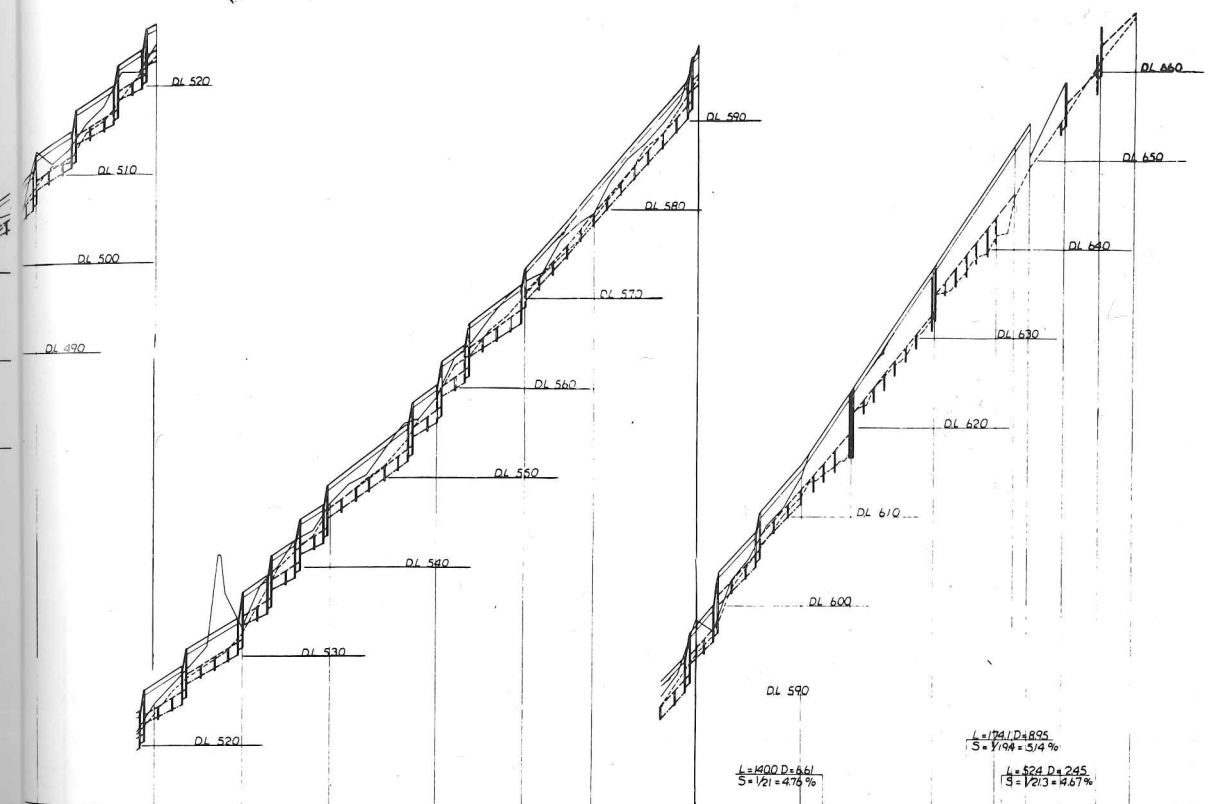
平面図



縦断面図

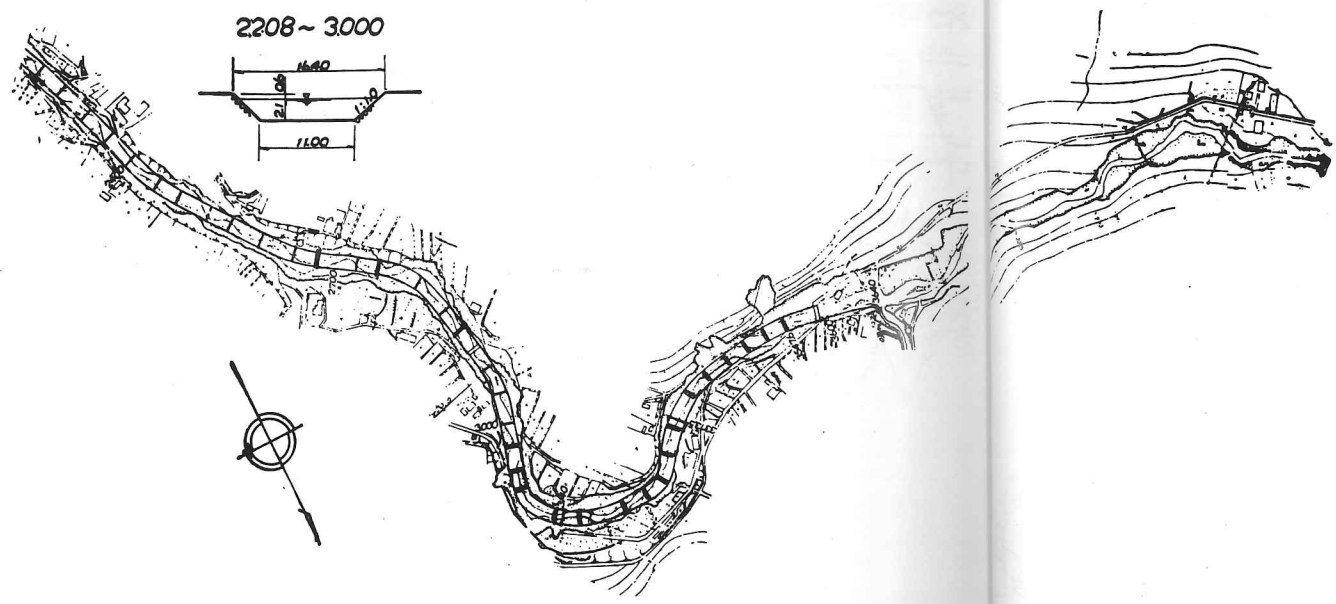


断面	河床高	堤脚高	堤頂高	堤内高	堤外高	堤内高	堤外高	堤内高	堤外高
-450	447.360	447.360	447.360	447.360	447.360	447.360	447.360	447.360	447.360
-200	447.360	447.360	447.360	447.360	447.360	447.360	447.360	447.360	447.360
00	447.360	447.360	447.360	447.360	447.360	447.360	447.360	447.360	447.360
200	447.360	447.360	447.360	447.360	447.360	447.360	447.360	447.360	447.360
400	447.360	447.360	447.360	447.360	447.360	447.360	447.360	447.360	447.360



断面	河床高	堤脚高	堤頂高	堤内高	堤外高	堤内高	堤外高	堤内高	堤外高
1150	504.279	523.439	524.085	524.085	524.085	524.085	524.085	524.085	524.085
1400	532.854	532.857	534.735	534.735	534.735	534.735	534.735	534.735	534.735
1650	547.090	546.888	549.435	549.435	549.435	549.435	549.435	549.435	549.435
1950	558.885	558.891	560.435	560.435	560.435	560.435	560.435	560.435	560.435
2200	572.016	570.436	571.935	571.935	571.935	571.935	571.935	571.935	571.935
2400	579.540	579.405	581.735	581.735	581.735	581.735	581.735	581.735	581.735
2700	592.427	594.337	597.835	597.835	597.835	597.835	597.835	597.835	597.835
3000	614.544	612.319	615.835	615.835	615.835	615.835	615.835	615.835	615.835
3140	624.48		624.48	624.48	624.48	624.48	624.48	624.48	624.48
3373.5	638.61	632.44	638.61	638.61	638.61	638.61	638.61	638.61	638.61
3547.6	648.90	641.61	648.90	648.90	648.90	648.90	648.90	648.90	648.90
3600	651.265	646.11	651.265	651.265	651.265	651.265	651.265	651.265	651.265
3640	650.070	649.168	650.070	650.070	650.070	650.070	650.070	650.070	650.070
3740		655.054		655.054		655.054		655.054	

野底川平面図

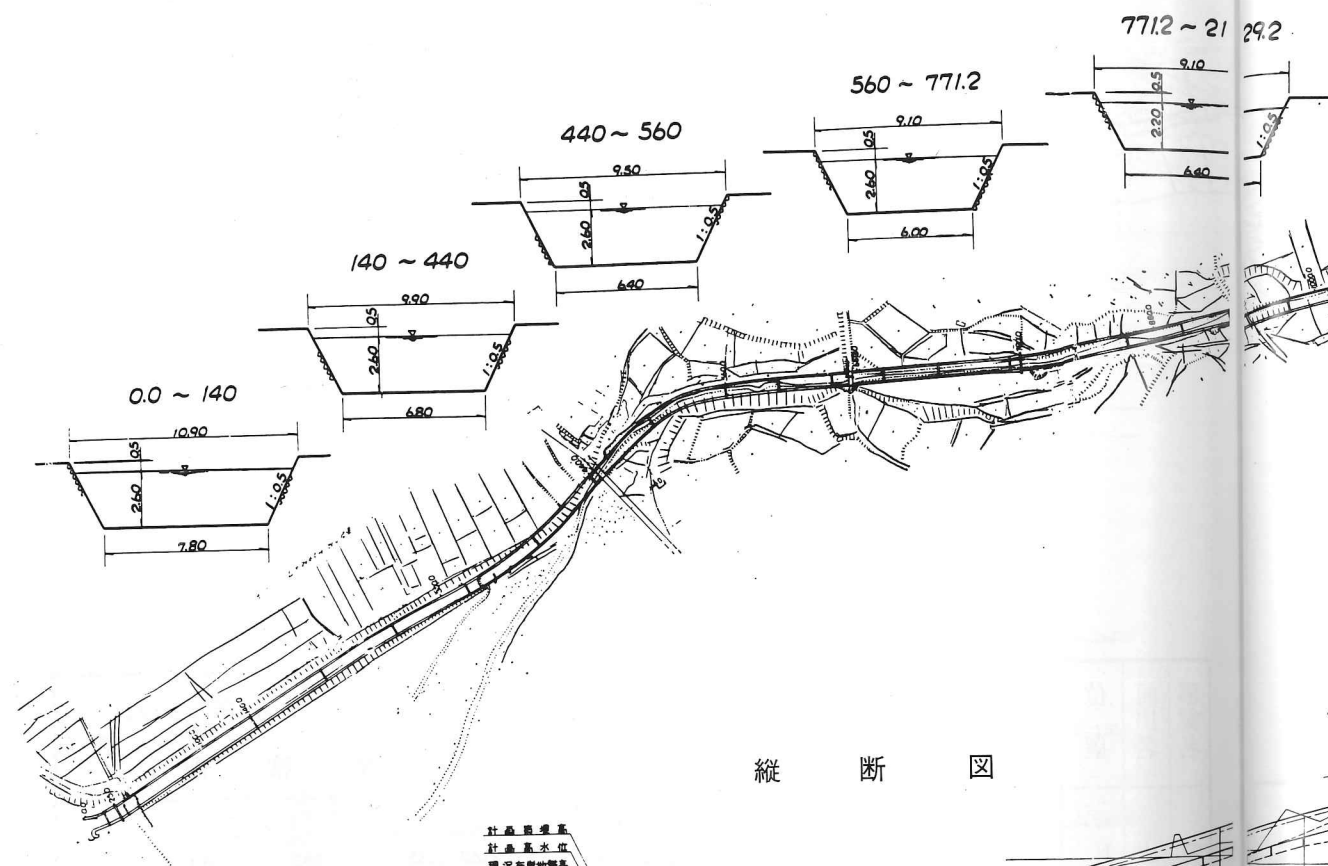


事業名	河川名	位置	事業費	m当り単価	工事概要	計 画
						標準横断
河川災害復旧	野底川	飯田上市郷・町野底	472,774	113	流路工 4,180m 護岸工 390m 落差工 35基 帯工 65基 堰堤 3基 護岸工 35,395㎡	

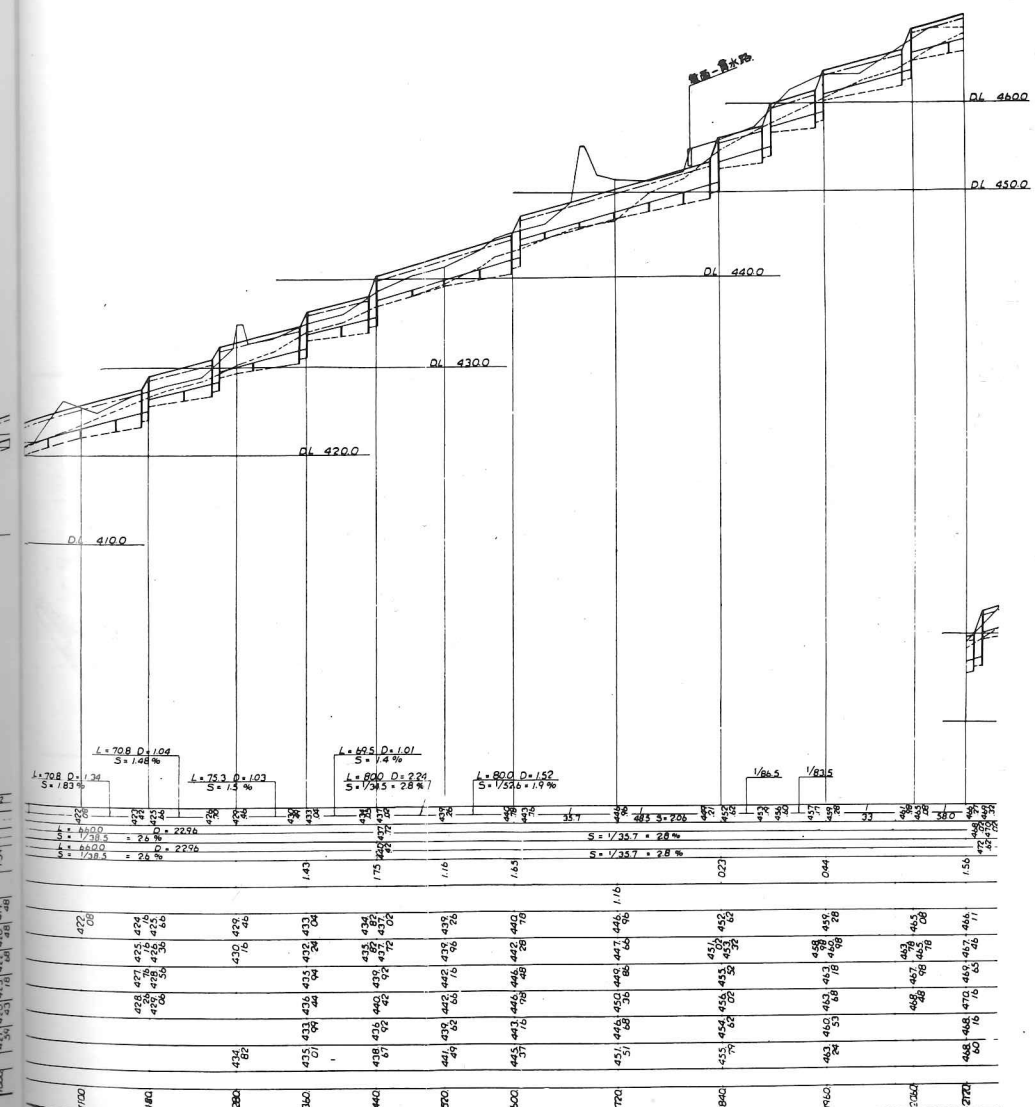
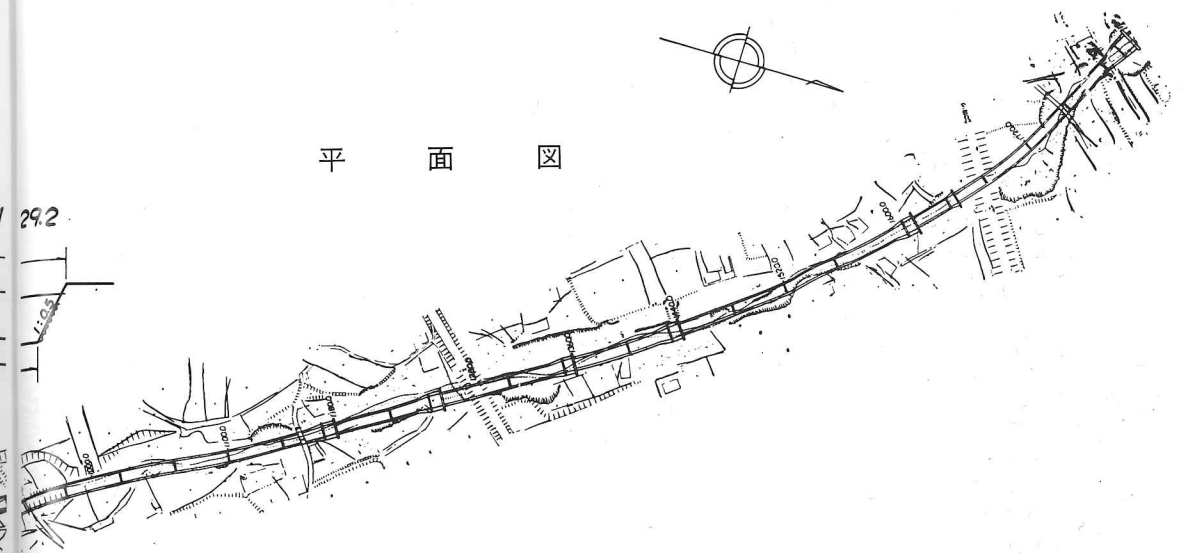
資料 飯田・伊那建設事務所

の 諸 元					砂 防 事 業		備 考
流域面積	河勾配	河積	流量	比流量	堰堤数	事業費	
22.3	1/73.3 1/22.2	28.8	220	9.8	4基	207,411	36災96号 附帯工 鉄道橋 1橋 道路橋 13橋

土 曾 川

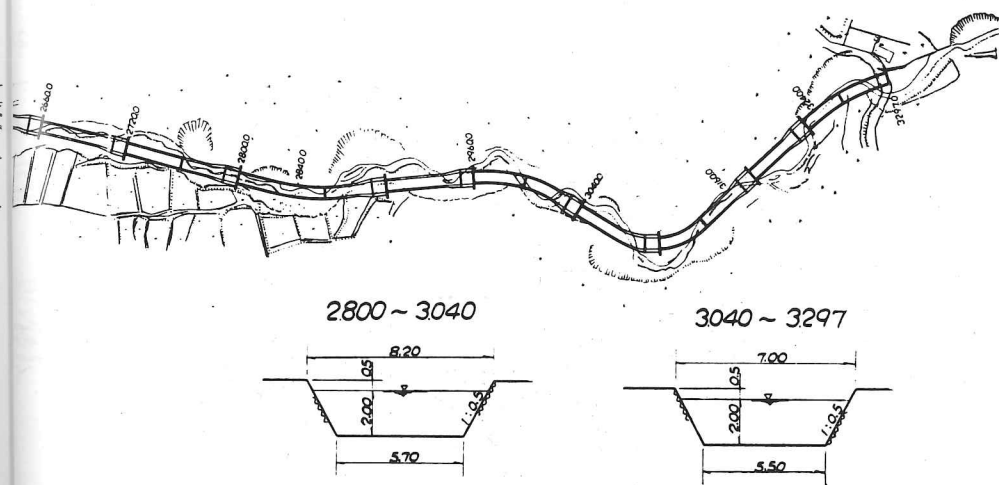
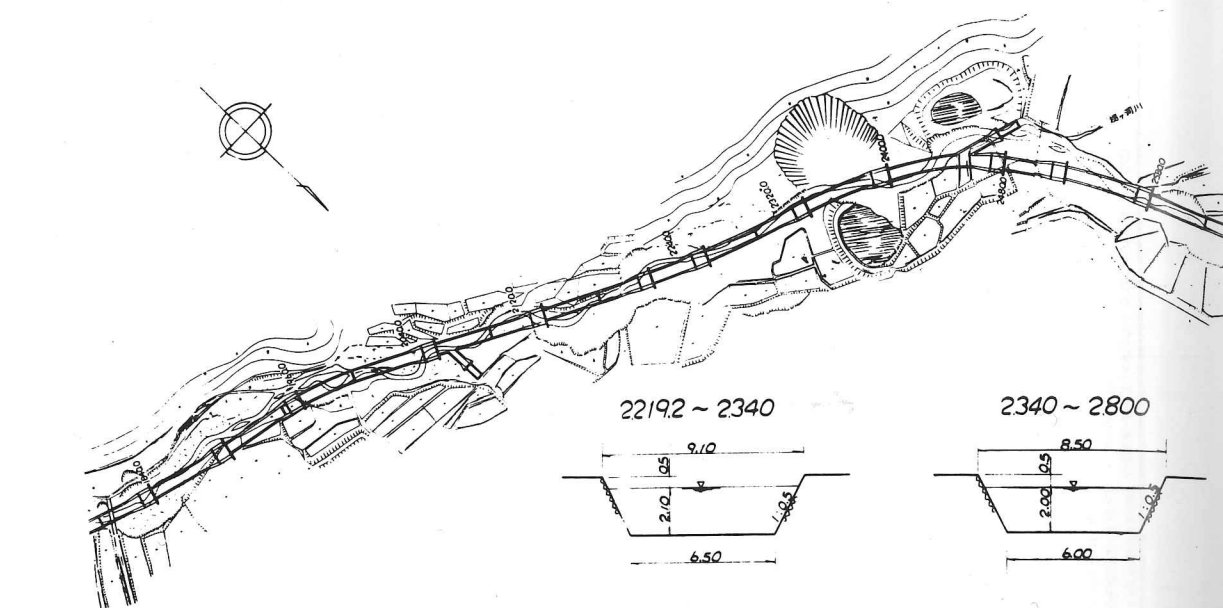


縦断図

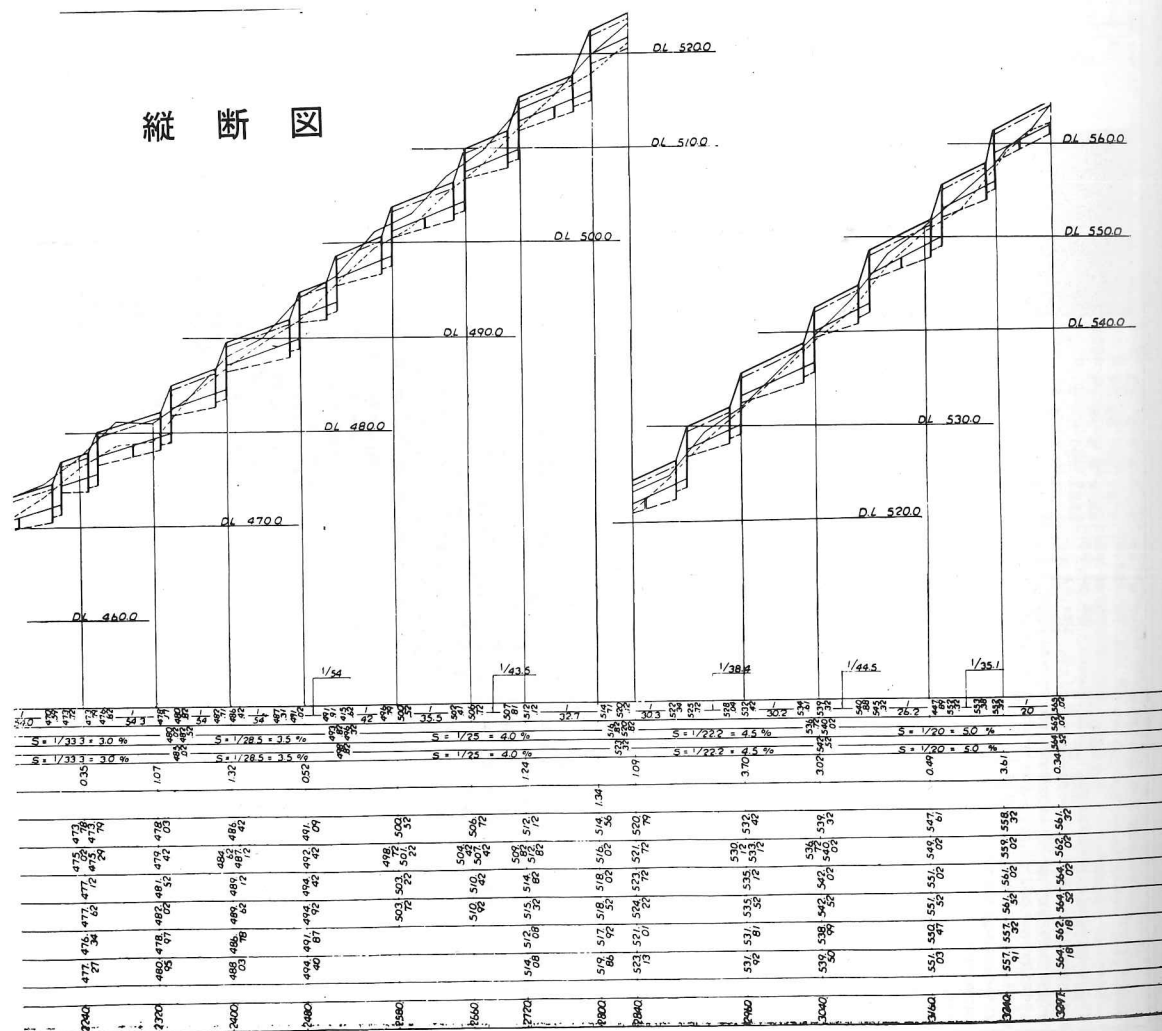


項	計	單	價	材	工
鋼筋	0.00	398 76	403 398	403 403	0.00
水泥	0.00	403 398	403 398	403 398	0.00
砂	0.00	403 398	403 398	403 398	0.00
碎石	0.00	403 398	403 398	403 398	0.00
木料	0.00	403 398	403 398	403 398	0.00
油漆	0.00	403 398	403 398	403 398	0.00
其他材料費	0.00	403 398	403 398	403 398	0.00
人工費	0.00	403 398	403 398	403 398	0.00
合計	0.00	403 398	403 398	403 398	0.00
備註					

土 曾 川 平 面 図



縦 断 図



事業名	河川名	位置	事業費	m当り 単価	工 事 概 要	計 画 の 諸 元		
						標 準 横 断		
河川災害復旧	土 曾 川	上郷村丹保羽場	千円 240,967	千円 73	流路工 3,297m 落差工 27基 帯 工 43基 護岸工 18,134㎡			
計 画 の 諸 元					砂 防 事 業		備 考	
流域 面積	河 勾	床 配	河 積	流量	比流量	堰 堤 基 数		事業費
km ² 6.8	1 / 100 1 / 41		㎡ 24.3	m ³ /sec 93	m ³ /sec/km ² 13.6	1 基	22,883	15,000
							36災95号 附帯工 鉄道橋 1 橋 道路橋 8 橋 水路橋 1 橋	

Figure 1: Financial Structure of the Japanese Government, 1975

Category	Amount (Billion Yen)	Percentage (%)
Total Budget	56,780	100.0
Ordinary Budget	40,000	70.4
Special Budget	10,000	17.6
Debt Service	6,780	12.0
Ordinary Budget Breakdown		
Social Security	15,276	38.2
General Administration	9,500	23.8
Debt Service	1,526	3.8
Other	3,704	9.3

村民委員の文化センターも、終にたゞわが郷土にのみ居られた天竺である。そんな
に殺戮の濃き煙が、急速に種
に散れ見物となつた事は、何
きん快御免(えん)は次第ある。こ
てで、われこそは、放し
にほめておきたい。と云ふの
も内容で、根柢、予算をつ
いては未だに知りてないから
である。

予算三千万の特別振替金には
できなかつたが、それは村長が
殺と抱合せる事である。村は
文化センターが、村民委員
とするが名称を、村民委員
との意見ならうたが、あまな名
を会館建設に廻す事になつた。

条件、地方自治の意に於て成
されざるであつて、文化セ
は、これであつていた。な
次、後援者の欲いになつて
不便となつては知りたが、戸
くめ、及び明白い村作りを
知れども、中絶する事にな
る事になつた。

文化センターと庁舎な

目鼻のついた

壇

論

文化センターと庁舎な

一と庁舎

全
よき村の文化の根柢となべく
大にに要するべきではなかつた。
次に戸も模範一團進化するの
うだがその内容については明き
かなでない。事務能率のある明
い戸舎の出来ることは、まことに
結構ではあるが、村の文化、土
で進が行ってあるという持に、
事がたまたまよく、今からい
たす次第である。文化センター
び戸舎建の決定であり、村
の員として所感述べた次第

各分館へ分館

[illegible]

四月四日、防火週間の行事 た心づくしの握り飯で腹ごし

[illegible]

昭和三十四年皇太子御成婚記念
は三十五年度と本年度三回見

念 祭 煙 森
 思 人 約 五 本 今 だ 各 組 合 員 の
 三 組 が 参 加
 行 な
 わ る
 三 十 三 組
 念 祭 煙 森
 思 人 約 五 本 今 だ 各 組 合 員 の
 三 組 が 参 加
 行 な
 わ る
 三 十 三 組

松沢裕美
飯沼淳治
下黒田雅司

久保寺明 瀨武夫	小林広志	古瀬昭仁	中島美代子	丹羽紀江	後藤芳之	田中壽美子
別府善雄	飯沼邦彦	下黒田允徳	飯沼和夫	飯沼正	別府利美	飯沼雅俊

四・五月合併号

発行所	上郷村公民館
編集人	公民館広報部
印刷所	興文社印刷所

[illegible]

昭和三十七年度の本村予算は総も、村民とし

[illegible]

公民館長 竹内銀

[illegible]

分館活動を重上

特に意を用い地城産業発展のためにつつした。また、一般勤労階層の育成についても、今後相当の考慮を要していく。総合開発事業としては、上段における環境用水の

未曾有の大災害を発生するにあたり、国庫の補助金、起債を除いては、通常の実質買入により編成では、災害復旧は国庫の補助であり、高率補助が適用され、補助金九、三〇の割、起債一、二八七

針

九九

[illegible]

二月二十日改又さし下、大急宿下候也 官役ハ

昭和三十七年度 期に分けて徴取されていた公民館 広縁部・館報「か
の本村公民館費は 本の負担金は公民館員の高揚 運動部・社会体育
に活用され、活動の中心を占めてきた。このように、運動会、村内の

教育部——社会体育の

郷村にテレビが五〇〇台約三軒に一台の比と聞き驚嘆のほかはないところが最近このテレビの弊害について識者間に「テレビの普及は国民を総白痴化するものである」と、憂慮しその対策をこうじつ

農事ノ

[illegible]

棚田より奥へ1里



ホッパラ地蔵

野底川東側に日あたりのよい林道続く
法橋までは39年度に

昭和38年度の事業は、野底川東側に日あたりのよい林道が続き、法橋までは39年度に完成する。この林道は、野底川東側の山腹にあり、日あたりのよいので、稲作に有利である。また、この林道は、野底川東側の山腹にあり、日あたりのよいので、稲作に有利である。また、この林道は、野底川東側の山腹にあり、日あたりのよいので、稲作に有利である。

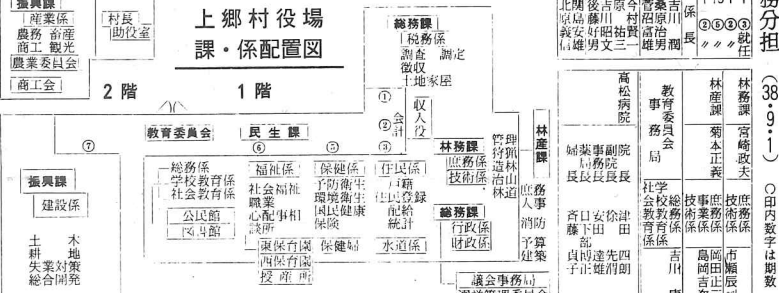
行政解説



円滑な行政事務
を考慮

円滑な行政事務を考慮。行政事務の円滑化は、地方自治体の重要な課題である。このためには、行政事務の効率化と透明性の向上が不可欠である。また、住民の理解と協力を得ることが、行政事務の円滑化に大きく貢献する。

上郷村役場 課・係配置図

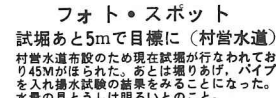


農事メモ



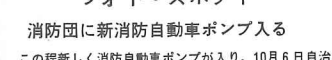
換気忘れぬ防寒施設
牛舎の補修は
早めに
冬の到来とともに、牛舎の換気と防寒施設の整備が重要となる。また、牛舎の補修は、早めに実施することが、冬の寒さによる被害を防ぐために不可欠である。

フォト・スポット



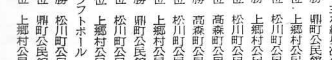
試験あと5mで目標に(村営水道)
村営水道の試験が、あと5mで目標に達した。これは、村営水道の整備が、ほぼ完了したことを示している。今後の作業は、残りの5mの完成と、システムの安定稼働の確保である。

フォト・スポット



消防団に新消防自動車ポンプ入る
この新しく消防自動車ポンプが入り、10月6日自治
消防15周年記念行事ならびにこの入式が行なわれた
。新消防自動車ポンプの導入は、消防団の装備強化に大きく貢献する。また、この入式は、消防団の15周年記念行事として、大規模に行われた。

フォト・スポット

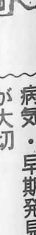


婦人学級音楽教室盛ん
合唱コンクールに入学した子供達も参加した音楽
教室は、盛況で、合唱コンクールにも出場した。この音楽教室は、地域の婦人学級として、盛況で運営されている。また、合唱コンクールにも出場し、高い評価を受けた。

四〇才以上にソフト採用

北公夏季体育大会開く
排球男子北部の覇者に
北公夏季体育大会が、北公地区で開催された。この大会は、四〇才以上のソフト採用が行われた。また、排球男子北部の覇者が決まった。

健康ダイジェスト



病気の早期発見
が大切
病気の早期発見が、健康を守るために大切である。定期的な健康診断を受けることが、病気の早期発見に大きく貢献する。

村人の動き



村人の動き
村人の動きに関するニュース。このセクションでは、村人の生活や活動に関する様々なニュースが紹介されている。

編集後記



編集後記
本誌の編集に関する後記。このセクションでは、本誌の編集方針や、読者の声に関するコメントが掲載されている。

世界大会閉会式



世界大会閉会式
世界大会の閉会式が行われた。この大会は、国際的な交流と協力を促進するために開催された。

健康ダイジェスト



健康ダイジェスト
健康に関するニュース。このセクションでは、最新の健康情報や、生活習慣病の予防法に関する情報が紹介されている。

村人の動き



村人の動き
村人の動きに関するニュース。このセクションでは、村人の生活や活動に関する様々なニュースが紹介されている。

編集後記



編集後記
本誌の編集に関する後記。このセクションでは、本誌の編集方針や、読者の声に関するコメントが掲載されている。

世界大会閉会式



世界大会閉会式
世界大会の閉会式が行われた。この大会は、国際的な交流と協力を促進するために開催された。

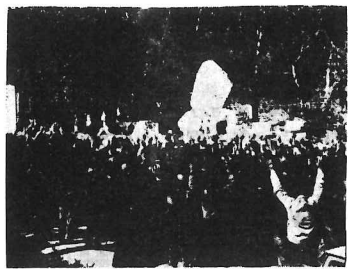
健康ダイジェスト



健康ダイジェスト
健康に関するニュース。このセクションでは、最新の健康情報や、生活習慣病の予防法に関する情報が紹介されている。

災害記念碑除幕

復旧のよろこびと犠牲者のめい福祈りつつ



去月十五日午後、町公民館前、災害記念碑の除幕式が挙行了。この記念碑は昭和六年六月に建てられ、十一年の間に、被災者や犠牲者の名を刻み、復旧のよろこびと犠牲者のめい福を祈るための記念碑として、町民の心を一つにするために建てられた。当日は、町民の多くが参加し、除幕式は厳粛な雰囲気で行われた。

意欲深かった 老人学級研修旅行

北原 治

私は老人学級の役員として、研修旅行に参加した。老人学級の活動は、単に知識の習得だけでなく、社会参加の機会を提供することにある。今回の研修旅行は、町内各地の観光名所や歴史スポットを訪れ、地域の文化や歴史を学ぶ機会となった。参加者は意欲高く、研修旅行を楽しんでいた。

新生活の実践二つ

香典返しと廃止

香典返しは、香典を頂いた方へお礼の品を送る習慣である。しかし、近年では香典返しを廃止する動きが広がっている。これは、香典返しにかかる費用が重く、また、香典返しをしないことで、香典を頂いた方への負担を減らすためである。この動きは、新生活の実践の一つとして注目されている。

結婚記念の植樹祭

結婚記念の植樹祭は、結婚した夫婦が、結婚記念日に植樹を行う習慣である。これは、結婚した夫婦の絆を深め、また、環境保護に貢献するためである。この習慣は、結婚した夫婦にとって大切な記念日となっている。

村人の動き

村人の動きは、村の発展と関係が深い。村人は、村の発展のために努力し、村の発展に貢献している。村人の動きは、村の発展の原動力となっている。

春の健康

春の健康は、春の季節に健康を維持するための活動である。春の健康は、春の季節に健康を維持するための活動である。春の健康は、春の季節に健康を維持するための活動である。

過労は禁物

過労は禁物である。過労は、健康を損ない、生活に悪影響を及ぼす。過労は、健康を損ない、生活に悪影響を及ぼす。過労は、健康を損ない、生活に悪影響を及ぼす。

編集後記

編集後記は、編集者の感想や、読者の反応などについて記述する。編集後記は、編集者の感想や、読者の反応などについて記述する。編集後記は、編集者の感想や、読者の反応などについて記述する。

選挙運動と改名

選挙運動と改名は、選挙運動と改名に関する活動である。選挙運動と改名は、選挙運動と改名に関する活動である。選挙運動と改名は、選挙運動と改名に関する活動である。

「明かるく正しい選挙運動」と改名

「明かるく正しい選挙運動」と改名は、選挙運動と改名に関する活動である。選挙運動と改名は、選挙運動と改名に関する活動である。選挙運動と改名は、選挙運動と改名に関する活動である。



七月号
発行所 上郷村公民館
編集人 公民館広報部
印刷所 興文社印刷所

三十六災復旧 四年を迎えて 整然と完成す

三十六災復旧は、三十六の被災地を復旧するための活動である。三十六災復旧は、三十六の被災地を復旧するための活動である。三十六災復旧は、三十六の被災地を復旧するための活動である。



一変した野底山
建設中

ベトナム戦争に思う

ベトナム戦争は、ベトナムとアメリカ合衆国との戦争である。ベトナム戦争は、ベトナムとアメリカ合衆国との戦争である。ベトナム戦争は、ベトナムとアメリカ合衆国との戦争である。



竣工前の17工区越田付近

竣工後の17工区越田付近

竣工後の17工区越田付近は、竣工後の17工区越田付近に関する活動である。竣工後の17工区越田付近は、竣工後の17工区越田付近に関する活動である。竣工後の17工区越田付近は、竣工後の17工区越田付近に関する活動である。

染谷盛一氏

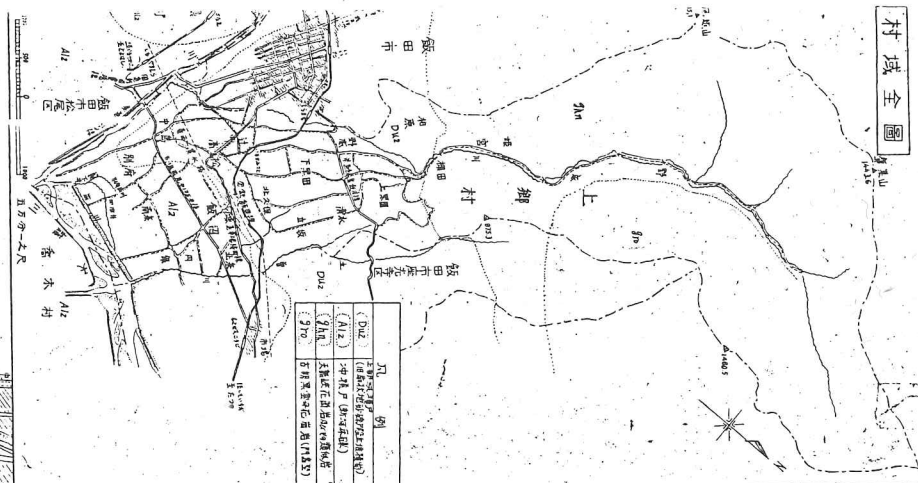
勲四等旭日小綬章叙勲



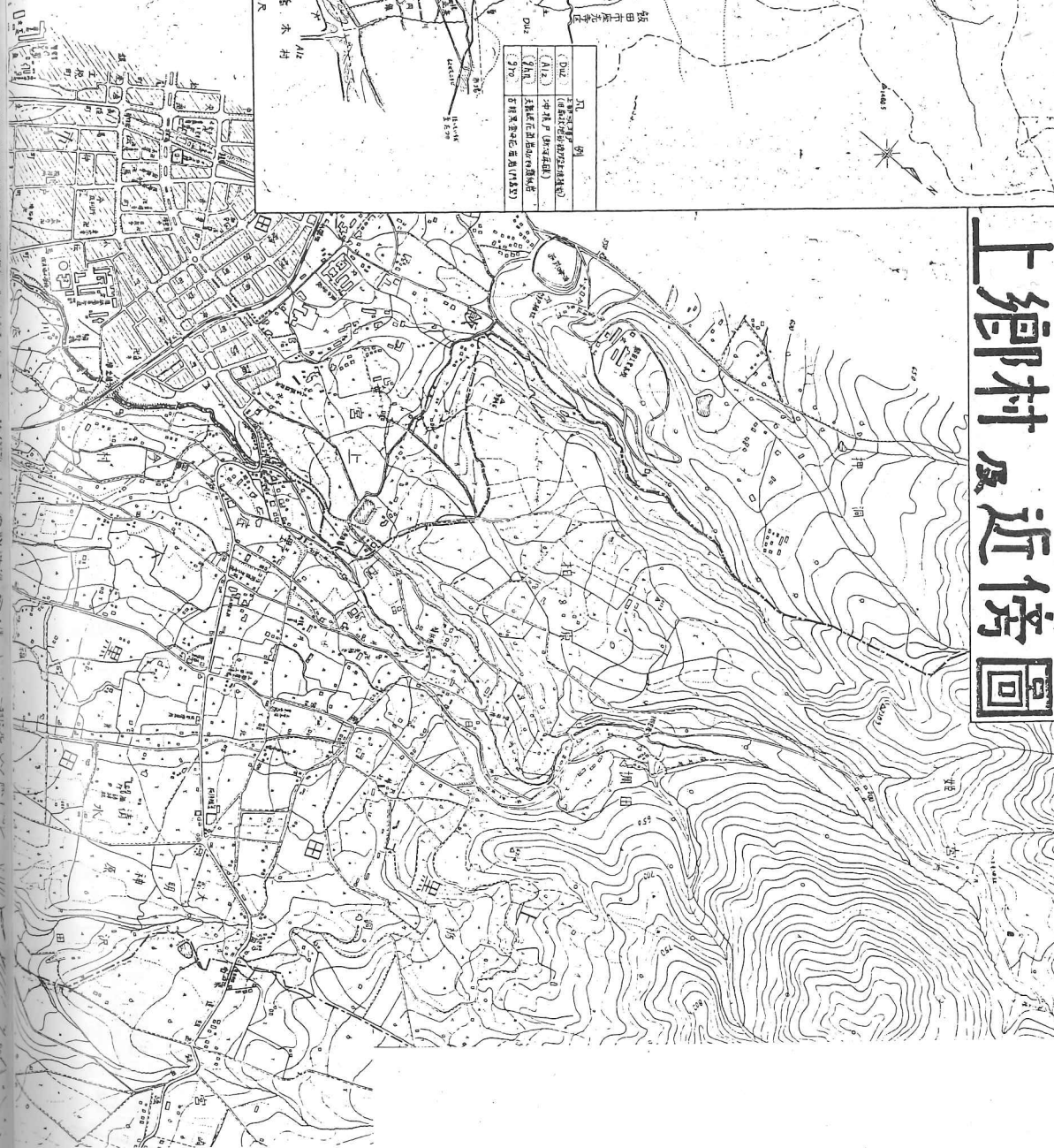
写真：上郷町の風景

上郷町の風景は、上郷町の風景に関する活動である。上郷町の風景は、上郷町の風景に関する活動である。上郷町の風景は、上郷町の風景に関する活動である。

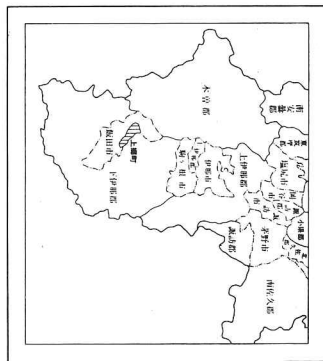
村域全圖



上郷村近傍図



上郷町図



高森町



飯田市

町

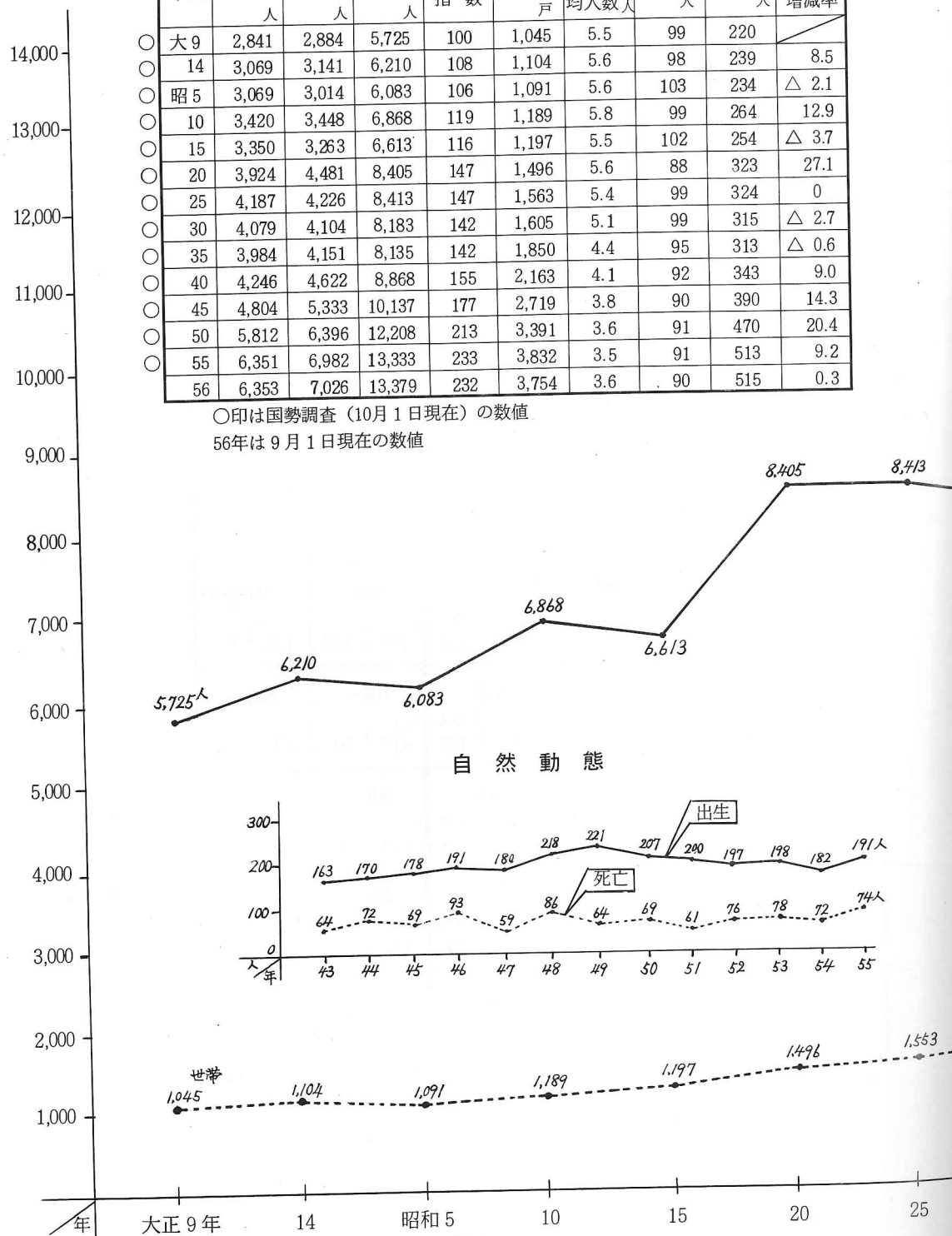


上郷町の人口・

● 55年間の人口の推移

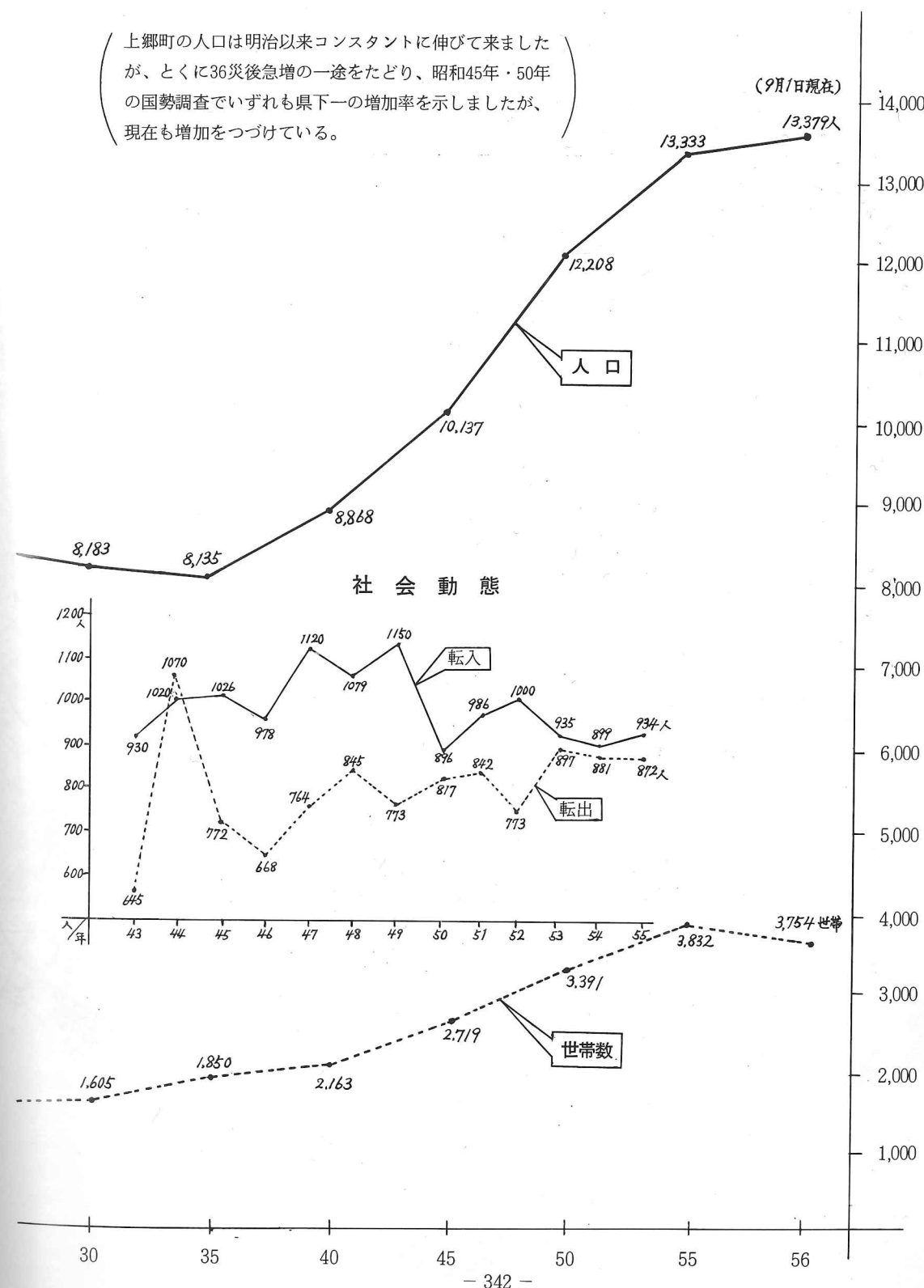
年次	人 口				世 帯 数		女100人 対 男 人	1km ² に つき人口	人 口 前回比 増減率
	男 人	女 人	合 計 人	指 数	世帯数 戸	一世帯平 均人数人			
○ 大 9	2,841	2,884	5,725	100	1,045	5.5	99	220	
○ 14	3,069	3,141	6,210	108	1,104	5.6	98	239	8.5
○ 昭 5	3,069	3,014	6,083	106	1,091	5.6	103	234	△ 2.1
○ 10	3,420	3,448	6,868	119	1,189	5.8	99	264	12.9
○ 15	3,350	3,263	6,613	116	1,197	5.5	102	254	△ 3.7
○ 20	3,924	4,481	8,405	147	1,496	5.6	88	323	27.1
○ 25	4,187	4,226	8,413	147	1,563	5.4	99	324	0
○ 30	4,079	4,104	8,183	142	1,605	5.1	99	315	△ 2.7
○ 35	3,984	4,151	8,135	142	1,850	4.4	95	313	△ 0.6
○ 40	4,246	4,622	8,868	155	2,163	4.1	92	343	9.0
○ 45	4,804	5,333	10,137	177	2,719	3.8	90	390	14.3
○ 50	5,812	6,396	12,208	213	3,391	3.6	91	470	20.4
○ 55	6,351	6,982	13,333	233	3,832	3.5	91	513	9.2
○ 56	6,353	7,026	13,379	232	3,754	3.6	90	515	0.3

○印は国勢調査(10月1日現在)の数値
56年は9月1日現在の数値



世帯数の推移

上郷町の人口は明治以来コンスタントに伸びて来ましたが、とくに36年後急増の一途をたどり、昭和45年・50年の国勢調査でいずれも県下一の増加率を示しましたが、現在も増加をつづけている。



地区別世帯数・人口の推移

	3 5		4 0		4 5	
	世 帯 数	人 口	世 帯 数	人 口	世 帯 数	人 口
上 黒 田	218 (11.8)	1,102 (13.5)	229 (10.6) 105	1,048 (11.8) 95	281 (10.3) 129 123	1,145 (11.3) 104 109
下 黒 田 北	217 (11.7)	981 (12.1)	302 (14.0) 139	1,220 (13.8) 124	488 (17.9) 225 162	1,820 (18.0) 186 149
下 黒 田 南	388 (21.0)	1,510 (18.6)	469 (21.7) 121	1,785 (20.1) 118	524 (19.3) 135 112	1,768 (17.4) 117 99
飯 沼 北	138 (7.5)	644 (7.9)	145 (6.7) 105	629 (7.1) 98	177 (6.5) 128 122	710 (7.0) 110 113
飯 沼 南	250 (13.5)	1,033 (12.7)	286 (13.2) 114	1,205 (13.6) 117	273 (10.0) 109 95	1,114 (11.0) 108 92
丹 保	109 (5.9)	548 (6.7)	120 (5.5) 110	551 (6.2) 101	119 (4.4) 109 99	519 (5.0) 95 94
南 条	63 (3.4)	325 (4.0)	63 (2.9) 100	283 (3.2) 87	153 (5.6) 243 243	601 (5.9) 185 212
別 府 上	221 (12.0)	813 (10.0)	244 (11.3) 110	849 (9.6) 104	284 (10.4) 129 116	926 (9.1) 114 109
別 府 下	245 (13.3)	1,179 (14.5)	305 (14.1) 124	1,298 (14.6) 110	420 (15.4) 171 138	1,534 (15.1) 151 118
計	1,849	8,135	2,163 117	8,868 109	2,719 147 126	10,137 125 114

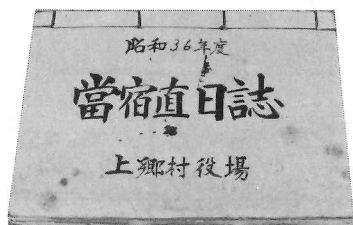
※ 中段 () 構成比 %

※ 下段 対35年指数 | 対前年比%

※ 56年のみ4月1日現在、その他国勢調査による。

5 0		5 5		5 6 (4. 1)	
世 帯 数	人 口	世 帯 数	人 口	世 帯 数	人 口
359 (10.6) 165 128	1,377 (11.2) 125 120	401 (10.4) 184 112	1,459 (11.0) 132 106	398 183 99	1,467 133 101
796 (23.5) 367 163	2,877 (23.6) 292 158	894 (23.3) 412 112	3,115 (23.4) 318 108	893 412 100	3,102 316 100
600 (17.7) 155 176	1,960 (16.5) 130 111	734 (19.2) 189 122	2,349 (17.6) 156 120	723 186 99	2,349 156 100
189 (5.6) 137 107	728 (6.0) 113 103	231 (6.0) 167 122	869 (6.5) 135 119	235 170 102	877 136 101
323 (9.5) 129 118	1,322 (10.8) 128 119	348 (9.1) 139 108	1,368 (10.3) 132 103	314 126 90	1,328 129 97
152 (4.5) 139 127	621 (5.1) 113 120	179 (4.7) 164 118	732 (5.5) 134 118	182 167 102	747 136 101
221 (6.5) 351 144	760 (6.2) 234 126	260 (6.8) 413 118	818 (6.1) 252 108	262 416 101	833 256 102
327 (9.6) 148 115	989 (8.1) 122 107	305 (8.0) 138 93	912 (6.8) 112 92	307 139 101	907 112 99
424 (12.5) 173 101	1,574 (12.9) 130 103	480 (12.5) 196 113	1,711 (12.8) 145 128	476 194 126	1,705 145 128
3,391 183 125	12,208 150 120	3,832 207 113	13,333 164 109	3,790 205 99	13,315 164 100

当宿直日誌より



六月二十六日 月曜日 雨

宿直者 野口 貞雄

1. 婦人会役員会東会議室使用 午後八時～十時
 2. 商工会役員会西会議室十時まで使用
 3. 下黒田分館会合湯呑所を十一時まで使用
- その他異状なく引継ぎます。
(大雨注意報) 午後六時
今夜より明朝にかけて県南部五十～一〇〇mm 山間部一〇〇mm以上

六月二十七日 火曜日 雨

宿直者 篠田 公平

1. 梅雨前線が中部日本にかけて覆ったため、未曾有の大豪雨となり、村長はじめ全職員残庁徹夜で防災に当るも三五〇mmの雨量の前には如何ともなしたが消防団員全村内随所に警戒待機する中で、殊に野底川、土曾川の氾濫により被害甚大となる。

七月一日 土曜日 雨曇

宿直者 川尻 和弘

全員災害復旧工事、事務に従事。前日に引続き第二班が宿直(約十五名)警戒に当る。

七月二日 日曜日 曇

日直者 北原 克司

日曜日で有るが、防災、応急対策等に職員全員従事。終日多忙な日であった。
自衛隊、本日より棚田地籍の道路決壊個所の応急工事に来村する。

七月二日 日曜日 曇

宿直者 林 慶一

職員の半数が有事に備えて宿直警戒にあたる。

七月三日 月曜日 曇

宿直者 渋谷 哲郎

全員災害復旧工事に当る。
職員の半数が宿直警戒にあたる。

七月四日 火曜日 雨曇

宿直者 中村 金蔵

職員半数宿直警戒に当る。
夜間緊急事項なし。
五日朝、自衛隊受入手配棚田橋一〇〇人

その被害の状況については全く筆舌に尽せず。

六月二十八日 水曜日 雨

宿直者 竹内 英雄

県の中南西部地方に大雨洪水警報が出、天竜川、野底川、土曾川、各河川が氾濫し、甚大な被害を出した為、役場職員は全員残庁、消防団員も現場に警戒にあたっていた。
その他異状なく引継ぎます。

六月二十九日 木曜日 雨曇

宿直者 岡島 寿雄

前日に続いて災害により被害あり、職員全員が出、警戒にあたる。
全員庁舎にとまる。

六月三十日 金曜日 雨曇

宿直者 武村 清隆

本日も全員が災害復旧にあたる。とまりは、今晚より二交代とし警戒にあたる。

七月一日 土曜日 雨曇

日直者 菅沼 勉

水防に全員従事する。
(情報・資材の確保・水防指導・炊出し等)

七月五日 水曜日 雨曇

宿直者 関島 昌平

職員四分の一宿直警戒に当る。夜間異状なし。
自衛隊給水車により配水タンク、病院前、小学校庭と別府北原治郎氏所有畑上三個所へ配置する。

七月六日 木曜日 曇時々雨

宿直者 関島 安雄

職員五名同宿警戒に当る。
その他異状なく引継ぎます。

七月七日 金曜日

宿直者 菅沼富雄・原 祐三

災害関係、篠田・吉川勝・川尻徹夜作業、その他来庁関係者おそくまで残業。
今日から二人で宿直することとなる。

七月八日 土曜日 晴

日直者 今村 賢一・鎌倉 福実

1. 防災に全職員終日従事。
その他異状なく引きつぎします。

七月八日 土曜日 晴

宿直者 吉川 潤・吉川 勝一

1. 西会議室・職員執行委員会、東会議室・商工会関係会

議

- 振興課職員残庁
- 梅の木井再びくずれ、とよ板の配意計り明朝（森組休日のため）送付することとする。 他
- その他緊急事態なし。

七月九日 日曜日

- 日直者 後藤 好男・林 慶一
- 振興課、民生課、総務課吉川潤・松尾
 - 教育委員会 吉川・桑田君勤務
 - ジープ終日使用
 - オートバイ使用数件
 - 飯田保健所より水道調査 高陵中学校の水道は再調査まで飲用不可
- その他異状なく引継ぎします。

七月九日 日曜日 雷雨↓晴

宿直者 吉川 庸・吉川 勝一

- 振興課職員残庁
 - 災害写真伸しのため篠田・川尻・日下部・服部の各氏当直就務
- その他緊急事項なし

七月十日 月曜日 晴

宿直者 菅沼 勉・川尻 和弘

- 災害写真引伸しのため吉川勝・日下部・野口・関島・服部の

七月十四日 金曜日 晴

宿直者 野口 貞雄

- 振興課建設係全員午後十一時まで残務
- その他異状なく引継ぎます。

七月十五日 土曜日 晴

日直者 野口 貞雄

- 振興課その他残務者多数
- その他異状なく引継ぎます

七月十五日 土曜日 曇

宿直者 吉川 勝一

- 東会議室公民館報36・6豪雨特集号編集会議
 - 残務就務者、振興民生各課職員数名
- その他異状なし

各氏小学校にて残務、十二時頃たちよる。

- 振興課、税務係員残務
- その他緊急事項なし

七月十一日 火曜日 晴雨

宿直者 鎌倉 福実・北原 克司

- 東会議室に於て大井関係者会議午後九時三十分散会
 - 西会議室に於て上郷勤労協会議午後十時散会
 - 振興課午後九時頃まで残務
- その他異状なく引継ぎします

七月十二日 水曜日 小雨

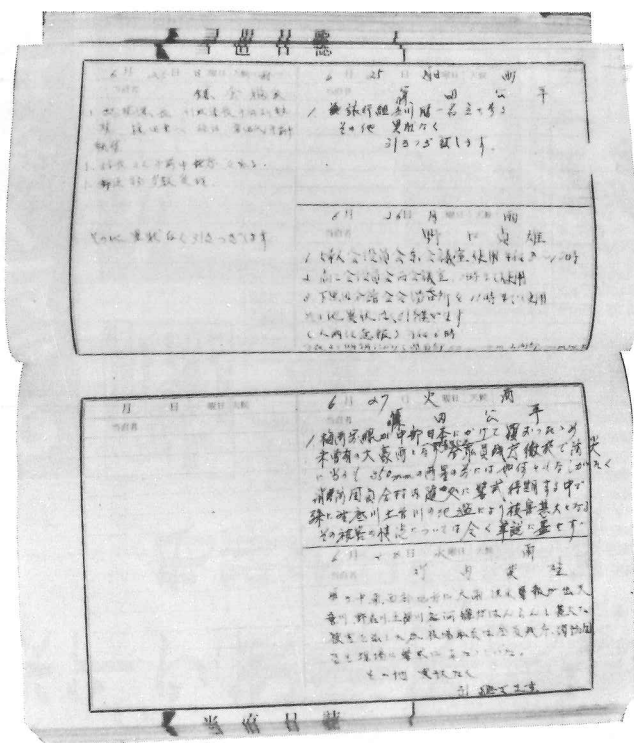
宿直者 後藤 好男・林 慶一

- 振興課建設係、民生課福祉係 午後十時迄残務
 - 村内建築業者 午後十一時まで東会議室において
- その他異状なく引継ぎします

七月十三日 木曜日 晴

宿直者 松尾幸雄・篠田公平

- 振興課建設係諸氏午後八時過迄残庁
 - 東会議室にて四日C集会午後十時まで
 - 図書館関係者事務打合せ会午後十時三十分まで
- その他異状なく引継ぎします



36年度当宿直日誌より

[illegible]

全国では死者・不明

125

[illegible]

又王廟川水の上下徘徊
 死傷行えず不問はふ
 した
 下柳川に河舟轉動致を所請
 同日三時二刻まで出陣す
 敵の動向を察知せしむるも
 未だ見えずに、不意に
 二百廿五箇丁の四十丸が来
 撃され、我々隊は急退き窮乏
 となりて、
 今迄の戦で最も大敗つた

[illegible][illegible]

大坂 關 中 野 北
望 遠 方 に は ま だ 大 雨 注
二 千 八 百 景 野 地 方 気 象 局 は 二 十 五 年 十 月 五 日 三 分 景 の 中 雨 部 に 西 風 と

姓名：_____

姓名：_____

1738 入野、桂野、杉、河、古井、相、田、三、校、区

[illegible]

漢の漢書

1

三十三

日比くふがふたつた。

三穴の間に、
 漢大寺所、墨永殿、千古宮
 四十坪に、ほり、茶園、
 曲川の主要河が、す
 だ、このため、天龍川、
 墨永殿、天龍川、
 墨永殿、天龍川、

△縣井沢二〇△上田一〇
△▽掛野一〇△松本一四

[illegible]

1. 以... 2. 以... 3. 以... 4. 以... 5. 以... 6. 以... 7. 以... 8. 以... 9. 以... 10. 以...

動

會三 各處三第方、會
二。

一、倉一 四家犬 (倉
 一、倉二 八家二 (地方
 倉三 倉四 倉五 (地方
 倉六 倉七 倉八 (地方
 倉九 倉十 倉十一 (地方
 倉十二 倉十三 倉十四 (地方
 倉十五 倉十六 倉十七 (地方
 倉十八 倉十九 倉二十 (地方
 倉二十一 倉二十二 倉二十三 (地方
 倉二十四 倉二十五 倉二十六 (地方
 倉二十七 倉二十八 倉二十九 (地方
 倉三十 倉三十一 倉三十二 (地方
 倉三十三 倉三十四 倉三十五 (地方
 倉三十六 倉三十七 倉三十八 (地方
 倉三十九 倉四十 倉四十一 (地方
 倉四十二 倉四十三 倉四十四 (地方
 倉四十五 倉四十六 倉四十七 (地方
 倉四十八 倉四十九 倉五十 (地方
 倉五十一 倉五十二 倉五十三 (地方
 倉五十四 倉五十五 倉五十六 (地方
 倉五十七 倉五十八 倉五十九 (地方
 倉六十 倉六十一 倉六十二 (地方
 倉六十三 倉六十四 倉六十五 (地方
 倉六十六 倉六十七 倉六十八 (地方
 倉六十九 倉七十 倉七十一 (地方
 倉七十二 倉七十三 倉七十四 (地方
 倉七十五 倉七十六 倉七十七 (地方
 倉七十八 倉七十九 倉八十 (地方
 倉八十一 倉八十二 倉八十三 (地方
 倉八十四 倉八十五 倉八十六 (地方
 倉八十七 倉八十八 倉八十九 (地方
 倉九十 倉九十一 倉九十二 (地方
 倉九十三 倉九十四 倉九十五 (地方
 倉九十六 倉九十七 倉九十八 (地方
 倉九十九 倉一百 倉一百一 (地方
 倉一百二 倉一百三 倉一百四 (地方
 倉一百五 倉一百六 倉一百七 (地方
 倉一百八 倉一百九 倉二百 (地方
 倉二百一 倉二百二 倉二百三 (地方
 倉二百四 倉二百五 倉二百六 (地方
 倉二百七 倉二百八 倉二百九 (地方
 倉三百 倉三百一 倉三百二 (地方
 倉三百三 倉三百四 倉三百五 (地方
 倉三百六 倉三百七 倉三百八 (地方
 倉三百九 倉四百 倉四百一 (地方
 倉四百二 倉四百三 倉四百四 (地方
 倉四百五 倉四百六 倉四百七 (地方
 倉四百八 倉四百九 倉五百 (地方
 倉五百一 倉五百二 倉五百三 (地方
 倉五百四 倉五百五 倉五百六 (地方
 倉五百七 倉五百八 倉五百九 (地方
 倉六百 倉六百一 倉六百二 (地方
 倉六百三 倉六百四 倉六百五 (地方
 倉六百六 倉六百七 倉六百八 (地方
 倉六百九 倉七百 倉七百一 (地方
 倉七百二 倉七百三 倉七百四 (地方
 倉七百五 倉七百六 倉七百七 (地方
 倉七百八 倉七百九 倉八百 (地方
 倉八百一 倉八百二 倉八百三 (地方
 倉八百四 倉八百五 倉八百六 (地方
 倉八百七 倉八百八 倉八百九 (地方
 倉九百 倉九百一 倉九百二 (地方
 倉九百三 倉九百四 倉九百五 (地方
 倉九百六 倉九百七 倉九百八 (地方
 倉九百九 倉一千 倉一千一 (地方
 倉一千二 倉一千三 倉一千四 (地方
 倉一千五 倉一千六 倉一千七 (地方
 倉一千八 倉一千九 倉二千 (地方
 倉二千一 倉二千二 倉二千三 (地方
 倉二千四 倉二千五 倉二千六 (地方
 倉二千七 倉二千八 倉二千九 (地方
 倉三千 倉三千一 倉三千二 (地方
 倉三千三 倉三千四 倉三千五 (地方
 倉三千六 倉三千七 倉三千八 (地方
 倉三千九 倉四千 倉四千一 (地方
 倉四千二 倉四千三 倉四千四 (地方
 倉四千五 倉四千六 倉四千七 (地方
 倉四千八 倉四千九 倉五千 (地方
 倉五千一 倉五千二 倉五千三 (地方
 倉五千四 倉五千五 倉五千六 (地方
 倉五千七 倉五千八 倉五千九 (地方
 倉六千 倉六千一 倉六千二 (地方
 倉六千三 倉六千四 倉六千五 (地方
 倉六千六 倉六千七 倉六千八 (地方
 倉六千九 倉七千 倉七千一 (地方
 倉七千二 倉七千三 倉七千四 (地方
 倉七千五 倉七千六 倉七千七 (地方
 倉七千八 倉七千九 倉八千 (地方
 倉八千一 倉八千二 倉八千三 (地方
 倉八千四 倉八千五 倉八千六 (地方
 倉八千七 倉八千八 倉八千九 (地方
 倉九千 倉九千一 倉九千二 (地方
 倉九千三 倉九千四 倉九千五 (地方
 倉九千六 倉九千七 倉九千八 (地方
 倉九千九 倉一万 倉一万一 (地方
 倉一万二 倉一万三 倉一万四 (地方
 倉一万五 倉一万六 倉一万七 (地方
 倉一万八 倉一万九 倉二万 (地方
 倉二万一 倉二万二 倉二万三 (地方
 倉二万四 倉二万五 倉二万六 (地方
 倉二万七 倉二万八 倉二万九 (地方
 倉三万 倉三万一 倉三万二 (地方
 倉三万三 倉三万四 倉三万五 (地方
 倉三万六 倉三万七 倉三万八 (地方
 倉三万九 倉四万 倉四万一 (地方
 倉四万二 倉四万三 倉四万四 (地方
 倉四万五 倉四万六 倉四万七 (地方
 倉四万八 倉四万九 倉五万 (地方
 倉五万一 倉五万二 倉五万三 (地方
 倉五万四 倉五万五 倉五万六 (地方
 倉五万七 倉五万八 倉五万九 (地方
 倉六万 倉六万一 倉六万二 (地方
 倉六万三 倉六万四 倉六万五 (地方
 倉六万六 倉六万七 倉六万八 (地方
 倉六万九 倉七万 倉七万一 (地方
 倉七万二 倉七万三 倉七万四 (地方
 倉七万五 倉七万六 倉七万七 (地方
 倉七万八 倉七万九 倉八万 (地方
 倉八万一 倉八万二 倉八万三 (地方
 倉八万四 倉八万五 倉八万六 (地方
 倉八万七 倉八万八 倉八万九 (地方
 倉九万 倉九万一 倉九万二 (地方
 倉九万三 倉九万四 倉九万五 (地方
 倉九万六 倉九万七 倉九万八 (地方
 倉九万九 倉十万 倉十万一 (地方
 倉十万二 倉十万三 倉十万四 (地方
 倉十万五 倉十万六 倉十万七 (地方
 倉十万八 倉十万九 倉十一万 (地方
 倉十一万一 倉十一万二 倉十一万三 (地方
 倉十一万四 倉十一万五 倉十一万六 (地方
 倉十一万七 倉十一万八 倉十一万九 (地方
 倉十二万 倉十二万一 倉十二万二 (地方
 倉十二万三 倉十二万四 倉十二万五 (地方
 倉十二万六 倉十二万七 倉十二万八 (地方
 倉十二万九 倉十三万 倉十三万一 (地方
 倉十三万二 倉十三万三 倉十三万四 (地方
 倉十三万五 倉十三万六 倉十三万七 (地方
 倉十三万八 倉十三万九 倉十四万 (地方
 倉十四万一 倉十四万二 倉十四万三 (地方
 倉十四万四 倉十四万五 倉十四万六 (地方
 倉十四万七 倉十四万八 倉十四万九 (地方
 倉十五万 倉十五万一 倉十五万二 (地方
 倉十五万三 倉十五万四 倉十五万五 (地方
 倉十五万六 倉十五万七 倉十五万八 (地方
 倉十五万九 倉十六万 倉十六万一 (地方
 倉十六万二 倉十六万三 倉十六万四 (地方
 倉十六万五 倉十六万六 倉十六万七 (地方
 倉十六万八 倉十六万九 倉十七万 (地方
 倉十七万一 倉十七万二 倉十七万三 (地方
 倉十七万四 倉十七万五 倉十七万六 (地方
 倉十七万七 倉十七万八 倉十七万九 (地方
 倉十八万 倉十八万一 倉十八万二 (地方
 倉十八万三 倉十八万四 倉十八万五 (地方
 倉十八万六 倉十八万七 倉十八万八 (地方
 倉十八万九 倉十九万 倉十九万一 (地方
 倉十九万二 倉十九万三 倉十九万四 (地方
 倉十九万五 倉十九万六 倉十九万七 (地方
 倉十九万八 倉十九万九 倉二十万 (地方
 倉二十万一 倉二十万二 倉二十万三 (地方
 倉二十万四 倉二十万五 倉二十万六 (地方
 倉二十万七 倉二十万八 倉二十万九 (地方
 倉二十一万 倉二十一万一 倉二十一万二 (地方
 倉二十一万三 倉二十一万四 倉二十一万五 (地方
 倉二十一万六 倉二十一万七 倉二十一万八 (地方
 倉二十一万九 倉二十二万 倉二十二万一 (地方
 倉二十二万二 倉二十二万三 倉二十二万四 (地方
 倉二十二万五 倉二十二万六 倉二十二万七 (地方
 倉二十二万八 倉二十二万九 倉二十三万 (地方
 倉二十三万一 倉二十三万二 倉二十三万三 (地方
 倉二十三万四 倉二十三万五 倉二十三万六 (地方
 倉二十三万七 倉二十三万八 倉二十三万九 (地方
 倉二十四万 倉二十四万一 倉二十四万二 (地方
 倉二十四万三 倉二十四万四 倉二十四万五 (地方
 倉二十四万六 倉二十四万七 倉二十四万八 (地方
 倉二十四万九 倉二十五万 倉二十五万一 (地方
 倉二十五万二 倉二十五万三 倉二十五万四 (地方
 倉二十五万五 倉二十五万六 倉二十五万七 (地方
 倉二十五万八 倉二十五万九 倉二十六万 (地方
 倉二十六万一 倉二十六万二 倉二十六万三 (地方
 倉二十六万四 倉二十六万五 倉二十六万六 (地方
 倉二十六万七 倉二十六万八 倉二十六万九 (地方
 倉二十七万 倉二十七万一 倉二十七万二 (地方
 倉二十七万三 倉二十七万四 倉二十七万五 (地方
 倉二十七万六 倉二十七万七 倉二十七万八 (地方
 倉二十七万九 倉二十八万 倉二十八万一 (地方
 倉二十八万二 倉二十八万三 倉二十八万四 (地方
 倉二十八万五 倉二十八万六 倉二十八万七 (地方
 倉二十八万八 倉二十八万九 倉二十九万 (地方
 倉二十九万一 倉二十九万二 倉二十九万三 (地方
 倉二十九万四 倉二十九万五 倉二十九万六 (地方
 倉二十九万七 倉二十九万八 倉二十九万九 (地方
 倉三十万 倉三十万一 倉三十万二 (地方
 倉三十万三 倉三十万四 倉三十万五 (地方
 倉三十万六 倉三十万七 倉三十万八 (地方
 倉三十万九 倉三十一万 倉三十一万一 (地方
 倉三十一万二 倉三十一万三 倉三十一万四 (地方
 倉三十一万五 倉三十一万六 倉三十一万七 (地方
 倉三十一万八 倉三十一万九 倉三十二万 (地方
 倉三十二万一 倉三十二万二 倉三十二万三 (地方
 倉三十二万四 倉三十二万五 倉三十二万六 (地方
 倉三十二万七 倉三十二万八 倉三十二万九 (地方
 倉三十三万 倉三十三万一 倉三十三万二 (地方
 倉三十三万三 倉三十三万四 倉三十三万五 (地方
 倉三十三万六 倉三十三万七 倉三十三万八 (地方
 倉三十三万九 倉三十四万 倉三十四万一 (地方
 倉三十四万二 倉三十四万三 倉三十四万四 (地方
 倉三十四万五 倉三十四万六 倉三十四万七 (地方
 倉三十四万八 倉三十四万九 倉三十五万 (地方
 倉三十五万一 倉三十五万二 倉三十五万三 (地方
 倉三十五万四

[illegible]

大内閣府官報第百七十七号

これは、十五、所の、伊勢市、

志南 なるほど

所長 そうですね、でも、
きょうのことは、まだい
ても、まだ交通にしてい
る。まだ交通にしてい

全編 11月

ネツ

北陸や北
海道、東
北、大分
など、全

一、県は災害対策本部（本部員）を設け、災害救助に当たつた。

[illegible]

.....

興金分
27日現在
自民党
社会党
民主進
民社党
共計

年終で重慶縣の實業、買入
 れは三波との前年より引落上
 げ、馬の数は(去年と前年)

三波・政府乗き来る
三大重寶殿は時代

面

[illegible]

「たのむ」が、
人々の心を動かす

[illegible]

1. 北条、早稲上り (金)

[illegible]

「東京の政治界」

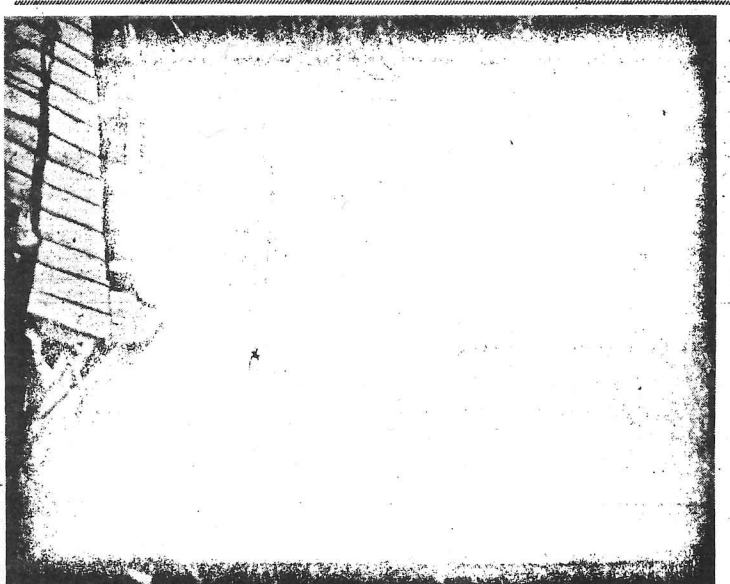
三〇四號之原野。(5)

七号台風につく水禍

伊那谷

救助員とも六人死ぬ 大鹿でも六人生き埋め

○大鹿町で発生した大規模な水害。救助員とも六人死ぬ。大鹿でも六人生き埋め。救助員とも六人死ぬ。大鹿でも六人生き埋め。



大鹿町で発生した大規模な水害。救助員とも六人死ぬ。大鹿でも六人生き埋め。

岐阜市、完全にマヒ

自衛隊も救助に出勤

岐阜市は、七号台風の影響で、完全にマヒ状態に陥った。市内の主要道路は水没し、交通が完全に遮断された。消防隊、自衛隊、警察などが救助活動に出勤し、被災者の救出に努めている。

松本空港を県営に 六月県会に提案

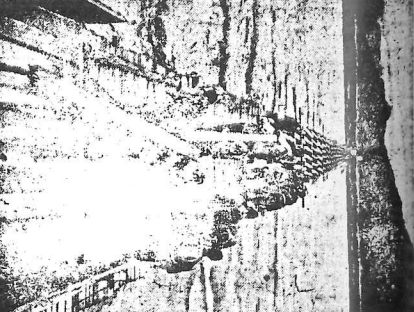
松本市は、松本空港を市営から県営に移管することを、六月の県議会に提案する。この提案は、松本市の発展と観光振興に大きく貢献するものと見られている。

屋根の土いじり

大雨による土砂災害の危険性を指摘。屋根の土いじりや、土砂の堆積による危険性を市民に警告している。

二十一人の土いじり

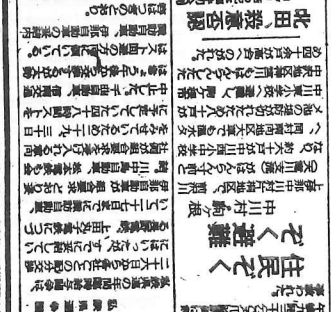
大雨による土砂災害で、二十一人が犠牲になった。被災者の家族や関係者は、捜索活動に協力している。



大雨による土砂災害で、二十一人が犠牲になった。

通水式は延期

大雨による土砂災害の影響で、通水式は延期された。関係者は、安全を確認してから式典を行うとしている。



大雨による土砂災害の影響で、通水式は延期された。

天事ふれ

民衆が孤立

大雨による土砂災害で、民衆が孤立状態に陥った。救助活動が困難な状況となっている。

地元を努力

地元住民は、災害対策に努力している。自助・共助の精神で、被災者の救出に協力している。

十八人の救助

大雨による土砂災害で、十八人が救助された。救助活動が完了したと発表されている。

生活の計画化を

災害対策として、生活の計画化が重要とされている。防災意識の向上が求められている。

学生小説コンテスト

学生小説コンテストの結果が発表された。優秀な作品が選ばれた。



学生小説コンテストの結果が発表された。

退職金おぼしき

日本に世界最高の劇場が

日本に世界最高の劇場が建設される。退職金おぼしきという噂が流れている。

二天新二を斬る

二天新二を斬るという伝説が、最近再び話題になっている。

呼び屋神影の

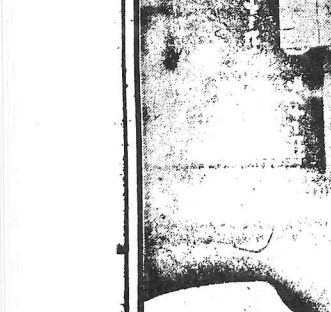
呼び屋神影の伝説が、最近再び話題になっている。

週刊現代

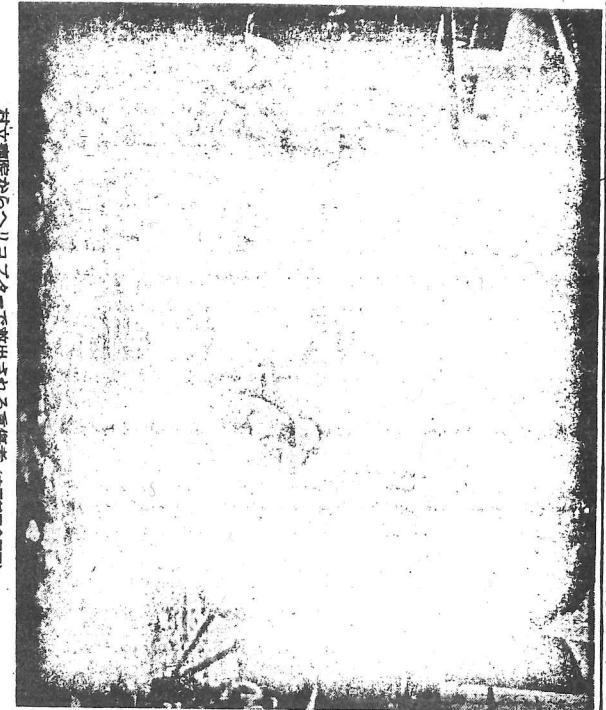
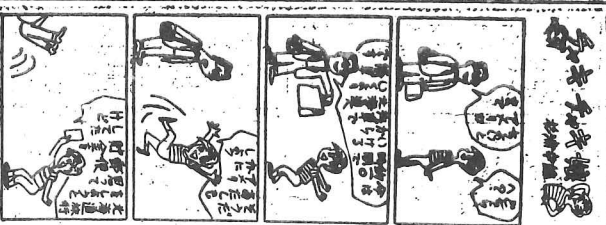
週刊現代の最新号が発行された。

ライナービター

ライナービターの最新号が発行された。



ライナービターの最新号が発行された。



大鹿でも救援開始

【本紙記者大鹿二十日電】大鹿町に発生した洪水による被害が深刻化する中、町民の生活に支障をきたしている。町民の生活に支障をきたしている。町民の生活に支障をきたしている。

復興に立ちあがる飯伊

被災者にやさしくと生気

【本紙記者飯伊二十日電】飯伊地区の被災者は、復興に立ちあがる。被災者にやさしくと生気。被災者にやさしくと生気。

一面川原と化す

水害の伴部谷まきへ

【本紙記者大鹿二十日電】大鹿町に発生した洪水による被害が深刻化する中、町民の生活に支障をきたしている。町民の生活に支障をきたしている。町民の生活に支障をきたしている。

20人が集団下痢

甲斐県 災害地で防疫指導

【本紙記者大鹿二十日電】大鹿町に発生した洪水による被害が深刻化する中、町民の生活に支障をきたしている。町民の生活に支障をきたしている。町民の生活に支障をきたしている。

死者19 不明35人大鹿村

軍用機も出動

【本紙記者大鹿二十日電】大鹿町に発生した洪水による被害が深刻化する中、町民の生活に支障をきたしている。町民の生活に支障をきたしている。町民の生活に支障をきたしている。

水害地が心配です

池田首相の帰国第一声

【本紙記者大鹿二十日電】大鹿町に発生した洪水による被害が深刻化する中、町民の生活に支障をきたしている。町民の生活に支障をきたしている。町民の生活に支障をきたしている。

復興はおくれる

【本紙記者大鹿二十日電】大鹿町に発生した洪水による被害が深刻化する中、町民の生活に支障をきたしている。町民の生活に支障をきたしている。町民の生活に支障をきたしている。

カニ口

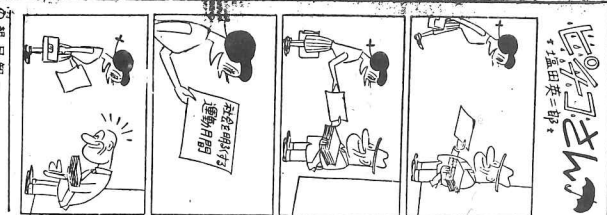
申上げて水害お見舞

バーベキュー

肉がおいしくやわらかくなる

旭味合

旭味合セツト



家掘り出す高校生

復興に立ち上がる伊那谷

【伊那谷】伊那谷町の復興に立ち上がる高校生。伊那谷町は、戦後、復興の途上にある。町民は、復興のために、家掘りをする。高校生は、復興のために、家掘りをする。復興のために、家掘りをする。復興のために、家掘りをする。

復興に立ち上がる伊那谷

家掘り出す高校生

【伊那谷】伊那谷町の復興に立ち上がる高校生。伊那谷町は、戦後、復興の途上にある。町民は、復興のために、家掘りをする。高校生は、復興のために、家掘りをする。復興のために、家掘りをする。復興のために、家掘りをする。

利害対立で悲劇招く

完敗の中、小河川

【中河川】中河川の利害対立で悲劇が招かれた。中河川は、利権の争いの場となった。利権の争い、利権の争い、利権の争い、利権の争い。

利害対立で悲劇招く

完敗の中、小河川

【中河川】中河川の利害対立で悲劇が招かれた。中河川は、利権の争いの場となった。利権の争い、利権の争い、利権の争い、利権の争い。

大阪作業中のビルで爆発

新築中のビルで爆発

【大阪】大阪市内で新築中のビルで爆発が発生。爆発は、ビルの中を巻き起こし、多くの作業員が負傷した。爆発の原因は、不明である。

大阪作業中のビルで爆発

新築中のビルで爆発

【大阪】大阪市内で新築中のビルで爆発が発生。爆発は、ビルの中を巻き起こし、多くの作業員が負傷した。爆発の原因は、不明である。

海浴の少年に乱暴

で名古屋の少年に乱暴

【名古屋】名古屋市内で、海浴中の少年に乱暴が加えられた。乱暴は、少年の生命を脅かすほどのものであった。事件は、現在、捜査中である。

海浴の少年に乱暴

で名古屋の少年に乱暴

【名古屋】名古屋市内で、海浴中の少年に乱暴が加えられた。乱暴は、少年の生命を脅かすほどのものであった。事件は、現在、捜査中である。

防音工事

防音工事

【防音工事】防音工事の重要性が強調されている。防音工事を行うことで、騒音を低減し、生活環境を改善することができる。

防音工事

防音工事

【防音工事】防音工事の重要性が強調されている。防音工事を行うことで、騒音を低減し、生活環境を改善することができる。

海浴

海浴の楽しさを伝えるための広告。海浴は、夏の定番のレジャー活動である。海浴を楽しむことで、心身ともに健康になることができる。

キヤベツから発見された胃腸薬

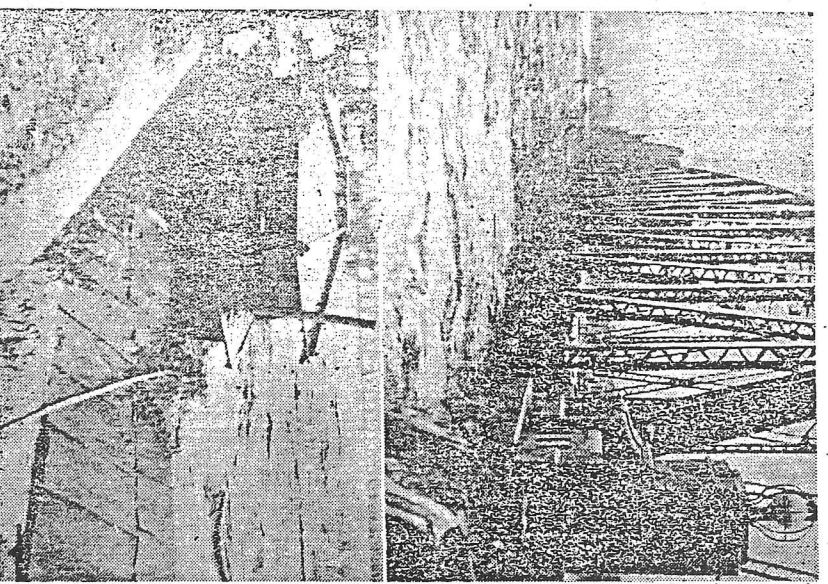
キヤベツから発見された胃腸薬の広告。この薬は、胃腸の健康を維持するのに役立つ。キヤベツは、胃腸の健康に良い影響を与える。

日本長期信用銀行

日本長期信用銀行の広告。当行は、長期信用の提供に専念している。お客様のニーズに応じた金融サービスを提供いたします。

(中部日本新聞 昭和36年7月3日掲載)

魔の水、空前の大被害もたらす



現地をゆく

〇二十七日、八幡川沿いの被災地を歩いた。被災者は、水に浸った家財を、舟で運搬している。被災者は、水に浸った家財を、舟で運搬している。

死者16不明42に達す

経済活動も止まり、状況

二十七日、被災地の状況は、死者16人、不明42人に達した。経済活動も止まり、状況は深刻である。

信託

信託 信託 信託

信託

信託 信託 信託

信託

信託 信託 信託

市道壊滅

見通したたぬ復旧

市道は壊滅し、見通したたぬ復旧。被災地の状況は深刻である。

谷川線

に大穴あき

谷川線に大穴あき。被災地の状況は深刻である。

信託

信託 信託 信託

信託

信託 信託 信託

信託

信託 信託 信託

洪水被害

死者16不明42に達す

洪水被害、死者16人、不明42人に達した。被災地の状況は深刻である。

洪水被害

死者16不明42に達す

洪水被害、死者16人、不明42人に達した。被災地の状況は深刻である。

信託

信託 信託 信託

信託

信託 信託 信託

信託

信託 信託 信託

洪水被害

死者16不明42に達す

洪水被害、死者16人、不明42人に達した。被災地の状況は深刻である。

洪水被害

死者16不明42に達す

洪水被害、死者16人、不明42人に達した。被災地の状況は深刻である。

飯田線94カ所で寸断

復旧のメドは全くたたない

飯田線は、先月二十七日午後、大規模な地震に襲われ、全線寸断された。復旧作業は、現在、全線にわたって進められているが、復旧のメドは全くたたない。被災区間の復旧は、約二ヶ月を要する見込みである。被災区間の復旧は、約二ヶ月を要する見込みである。

夕刻までに半数復旧

電々局の被害甚大

夕刻までに半数復旧。電々局の被害甚大。被災区間の復旧は、約二ヶ月を要する見込みである。

中電鉄塔に故障

配電所もやられる

中電鉄塔に故障。配電所もやられる。被災区間の復旧は、約二ヶ月を要する見込みである。

足取りもおわれ

川路方面にやとと生気蘇る

足取りもおわれ。川路方面にやとと生気蘇る。被災区間の復旧は、約二ヶ月を要する見込みである。

二人が土砂の下敷き

妙琴原で水防作業中

二人が土砂の下敷き。妙琴原で水防作業中。被災区間の復旧は、約二ヶ月を要する見込みである。

被害戸数六千軒

飯田市内の正午現在被害状況

被害戸数六千軒。飯田市内の正午現在被害状況。被災区間の復旧は、約二ヶ月を要する見込みである。

死者4、不明13人に

飯田市内の正午現在被害状況

死者4、不明13人に。飯田市内の正午現在被害状況。被災区間の復旧は、約二ヶ月を要する見込みである。



大あばれの野志川

市営住宅13戸が

午後三時現在

在死者16人

午後三時現在。在死者16人。被災区間の復旧は、約二ヶ月を要する見込みである。

伊賀良協

附近は濁流

伊賀良協。附近は濁流。被災区間の復旧は、約二ヶ月を要する見込みである。

工場の濁流

金山製綿の工員七人不明

工場の濁流。金山製綿の工員七人不明。被災区間の復旧は、約二ヶ月を要する見込みである。

八重子ちゃん死体で

一家六人生き埋め

八重子ちゃん死体で。一家六人生き埋め。被災区間の復旧は、約二ヶ月を要する見込みである。

直行ちゃん

も行方不明

直行ちゃん。も行方不明。被災区間の復旧は、約二ヶ月を要する見込みである。

自衛隊やと到着

気をもませて二百人松川町へ

自衛隊やと到着。気をもませて二百人松川町へ。被災区間の復旧は、約二ヶ月を要する見込みである。

実情に応じ授業

きよつから市の小中学校

実情に応じ授業。きよつから市の小中学校。被災区間の復旧は、約二ヶ月を要する見込みである。



おことわり

泣ノ沢住宅大騒ぎ

山掛けの土砂で埋まる

不明者氏名

山掛けの土砂で埋まる。不明者氏名。被災区間の復旧は、約二ヶ月を要する見込みである。

死者と行方

不明者氏名

死者と行方。不明者氏名。被災区間の復旧は、約二ヶ月を要する見込みである。

飯田線の復旧予定

金山製綿の工員七人不明

飯田線の復旧予定。金山製綿の工員七人不明。被災区間の復旧は、約二ヶ月を要する見込みである。

八重子ちゃん死体で

一家六人生き埋め

八重子ちゃん死体で。一家六人生き埋め。被災区間の復旧は、約二ヶ月を要する見込みである。

直行ちゃん

も行方不明

直行ちゃん。も行方不明。被災区間の復旧は、約二ヶ月を要する見込みである。

自衛隊やと到着

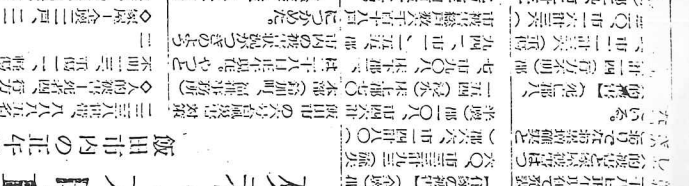
気をもませて二百人松川町へ

自衛隊やと到着。気をもませて二百人松川町へ。被災区間の復旧は、約二ヶ月を要する見込みである。

実情に応じ授業

きよつから市の小中学校

実情に応じ授業。きよつから市の小中学校。被災区間の復旧は、約二ヶ月を要する見込みである。



おことわり

泣ノ沢住宅大騒ぎ

山掛けの土砂で埋まる

不明者氏名

山掛けの土砂で埋まる。不明者氏名。被災区間の復旧は、約二ヶ月を要する見込みである。

死者と行方

不明者氏名

死者と行方。不明者氏名。被災区間の復旧は、約二ヶ月を要する見込みである。

飯田線の復旧予定

金山製綿の工員七人不明

飯田線の復旧予定。金山製綿の工員七人不明。被災区間の復旧は、約二ヶ月を要する見込みである。

八重子ちゃん死体で

一家六人生き埋め

八重子ちゃん死体で。一家六人生き埋め。被災区間の復旧は、約二ヶ月を要する見込みである。

直行ちゃん

も行方不明

直行ちゃん。も行方不明。被災区間の復旧は、約二ヶ月を要する見込みである。

自衛隊やと到着

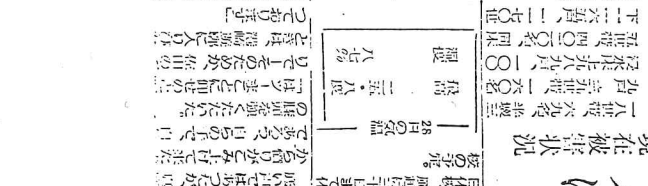
気をもませて二百人松川町へ

自衛隊やと到着。気をもませて二百人松川町へ。被災区間の復旧は、約二ヶ月を要する見込みである。

実情に応じ授業

きよつから市の小中学校

実情に応じ授業。きよつから市の小中学校。被災区間の復旧は、約二ヶ月を要する見込みである。



三六災害文集編集特別委員会 日誌

三六災害記念誌発刊について、昨年から職員全体の声がたかまり、今年が二十年目に当たり、出版時期としてはちょうど良い機会となり、互助会が中心になりながら特別委員会を設置し発刊の運びとなりました。

。五十六年 五月二十六日

「三六災害文集編集特別委員会」

記念誌の内容、日程等について協議する。

。五十六年 六月二十日

「三六災害文集編集特別委員会」

役員分担及び記念誌内容について検討する。

。五十六年 六月二十四日

「三六災害文集編集特別委員会」

発行期日、原稿提出日、出版部数等について協議する。

。五十六年 六月二十六日

三六災害思い出会開催する。（町民会館講堂、四十五名出席）

。五十六年 九月 七日

「三六災害文集編集特別委員会」

今後の記念誌編集取組について検討する。

原稿〆切九月十四日、発行予定十月二十六日、出版部数三百冊（B五判）決定する。

。五十六年 九月十六日

「三六災害文集編集特別委員会」

レイアウトの進捗状況、原稿修正について協議する。

。五十六年 九月三十日

記念誌題名募集〆切

。五十六年 十月 五日

「三六災害文集編集特別委員会」

記念誌題名決定（恐怖の豪雨） 副題 三六災害二十周年記念誌
原稿校正、写真関係、資料関係、分類関係、装丁について協議決定する。

三六災害文集編集特別委員会 名簿

編集特別委員長 八尾 芳穂
編集特別副委員長 菅沼 勉
事務局 林 慶一

事務局 林 慶一

久保田竜夫（庶務、会計）

浜島卓治（記録、資料） 吉川勝一（レイアウト）

篠田澄子（原稿） 井上弘司（写真）

編集分担構成（◎印担当責任者）

写真担当 ◎北原克司

レイアウト担当 ◎後藤好男

記録資料担当 ◎菊本正義

◎北原義信

◎林 慶一

◎吉川 庸

◎吉川 潤

◎横井滋子

市瀬辰司

菅沼富雄

岡山一郎

松尾幸雄

吉川昭文

湯沢次利

田間一良

篠田澄子

今村賢一

浜島卓治

関島安雄

小林満子

篠田澄子

編集後記

三六災害二十周年記念誌編集特別委員会

副委員長

菅沼

勉

正徳五年ひつじ満水以来と云う三六年梅雨前線豪雨による大災害に遭遇した。以来総力をあげ、英智を結集し、復旧につとめた結果、「禍を転じて福となす」との金言のように公共土木施設、農林水産施設も立派に改良復旧され、被災家屋も再建され災害の傷跡も除々に拭い去られたが、時恰も所得倍増の高度経済成長時代の幕明けを迎え、悲惨な災害の代償は地域の発展に大きく貢献する結果となったことは、不幸中の幸でもあった。

二十年を経過した今日、年毎に、はかなく消えつつある数々の追憶を綴り、忘れた頃やつて来る災害に対処するためにも、町の職員のみによる三六災害二十周年記念誌の刊行を計画した処、計画を上回る原稿の提出があり、本書の刊行の目的が達成できたことは喜ばしい。

計画から刊行まで僅か五ヶ月足らずと云う短期間に、各人が意の向くままの視点から記述され、これを編集委員会で、

職場に於いての苦闘の体験、惨状から復旧の苦労話、災害以後の就職者の体験談、親等から聴く話題等に分類した。なかにはふた昔の為に記憶違いの向はご容赦を賜りたい。資料については、公民館報、「語りつぐ災害の記録」、中日・信毎ほか新聞の記事等快く提供を頂き、三六災害の生々しい全貌の一片を知るに相応しい資料、写真が掲載できた。ただ惜しむらくは編纂に際し、専門的素養もないまま、極く短時間でまとめたため、分類、配分と掲載に適宜を逸した部分が多いこと、文章の配列や順序は一定でなく、無作為で不備がたくさんあるなど、完璧を期し得なかったことは極めて残念である。

しかしながら、これから時代が進展する中であって、この冊子が何等かのお役に立つことがあれば幸いである。

終りに資料の提供を願った関係機関の方々、刊行に際しお骨折りを願った飯田共同印刷 山田社長さんに対し、編集委員一同心から厚くお礼を申しあげます。

三六災害二十周年記念誌

恐怖の豪雨

発行日 昭和五十六年十月二十六日

編集者 三六災害二十周年記念誌編集特別委員会

発行者 長野県下伊那郡上郷町飯沼三一四五番地

上郷町役場内

上郷町職員互助会

印刷者 長野県下伊那郡上郷町黒田二四八番地の二

飯田共同印刷株式会社